

(仮称) 町田市立国際工芸美術館整備について

(仮称) 国際工芸美術館整備の進捗状況について報告します。

1 (仮称) 国際工芸美術館整備の考え方

別添資料 57～60 ページ

美術館の整備として単体でとらえるのではなく、「子どもと体験」という新たな視点を加え、そして芹ヶ谷公園や既存施設とのより一層の連携・つながりを目指し、公園と美術館を一体的に整備します

- ・ 新しく整備する(仮称)国際工芸美術館は、国際版画美術館と共に公園と連続した「美術エリア」を形成し、パークミュージアムへと美術活動を展開するための拠点と位置づけました。
- ・ パークミュージアムに美術活動が展開していく場として、(仮称)国際工芸美術館の整備とあわせて、新たに「アートステージ」や「タイケンステージ」など、小さな子どもでも美術活動をより身近に感じられる空間や、多様な創作活動が行える場を整備します。

2 基本設計の進捗

(1) 二つの美術館の一体的な整備

別添資料 61～62 ページ

(仮称)国際工芸美術館と国際版画美術館の連携を、ハード・ソフトの両面から強化します。両館の個性や価値を活かしながら、パークミュージアムのコンセプトに沿った開かれた美術館としての要素を加えると共に、それらの活動を支えるスタッフ空間を整備します。

(2) 外観・展示スペースのデザイン

別添資料 63～64 ページ

(仮称)国際工芸美術館は、周りの自然及び既存の国際版画美術館との調和を保ちます。また、公園の中にある環境を活かし、展示物の鑑賞だけではない美術館体験を提供します。展示スペースは、スタイルの異なる空間を活用することで、多様な工芸美術の魅力を表現・発信します。

(3) アートステージの整備

別添資料 65～66 ページ

国際版画美術館の一部を改修し、新たな美術館の顔であり、多様な文化芸術への導入空間となるアートステージを整備します。

(4) タイケンステージの整備

別添資料 67～68 ページ

国際版画美術館に近接する未利用地を活用し、創作活動を通じて文化芸術に親しむことができるタイケンステージを整備します。また、パークミュージアムとしてのサービス機能の拡充も図ります。

(5) 実現に向けたロードマップ

別添資料 77～78 ページ

財政負担の平準化を図り、市民サービスへの影響を最小限にできるスケジュールで進めます。

3 整備費について

(1) 美術館整備（基本設計に基づく概算工事費）

(単位：百万円)

(仮称) 国際工芸美術館整備工事	2,853
国際版画美術館・(仮称) 国際工芸美術館一体化工事	367

参考：前回基本設計（2016年）に基づく概算工事費：3,594百万円（消費税率の改定等を反映した値）

(2) 体験工房棟整備（想定値）

約8億円

4 芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトの実現に伴う波及効果

(1) 期待できる定性的な効果

芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトは、公園の魅力を向上させるだけではなく、まち全体の魅力、価値を高めるものです。文化、芸術、アートという彩（いろどり）をまちに加えることで、経済的な活動だけでは出会うことのない、新たな出会いや交流をまちに生み出します。

芹ヶ谷公園の豊かな自然を感じながら、多様なアート活動に五感を通じて触れられる「ここならではの」価値を創出し、その活動がまちなかにも広がっていくことで、より多くの来街者が訪れるまちになることを目指しています。

(2) 期待できる定量的な効果

- ① 本プロジェクトによる経済波及効果を、約252億円と算出しました。
(東京都産業連関表を用いた経済波及効果の分析)

経済波及効果額	約252億円	概ね20年(2022年～2041年)を想定した経済波及効果額を算出
---------	--------	-----------------------------------

- ② 来園者がまちで消費活動をするることによる効果を、1年あたり1億5,500万円と算出しました。

$$\begin{aligned} & \text{増加する来園者のうち、まちや公園で消費活動をする人} \\ & \times \text{消費活動の想定単価} \\ & = 1 \text{億} 5,500 \text{万円} / \text{年} \end{aligned}$$

項目	想定値	備考
増加する来園者	210,000 人／年	来園者目標 51.5 万人（2019 年度）⇒ 72.5 万人
来園者のうち、消費活動をする人	46,200 人／年	来園者アンケート 来園手段「電車・バス」22%
想定単価	3,338 円／日	町田市観光客数等実態調査報告書 (2018 年度)

5 財源の確保に向けた努力

(1) 企業版ふるさと納税

2019年11月8日、芹ヶ谷公園芸術の杜プロジェクトは地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)対象事業の「地域再生計画」に認定されました。内閣府が開催する「企業と地方公共団体のマッチング会」にも参加し、芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトのPRを行っています。実際に寄附もいただきました。

(2) 東京都市町村総合交付金まちづくり振興対策地域特選事業枠（地域特選枠）

本交付金は「地域課題の解決に向け、地域の実情を踏まえた独自の創意工夫により取り組む事業」又は「地域固有の資源や魅力を生かし、地域活性化を図る事業」を対象としています。町田市は、芹ヶ谷公園“芸術の杜”再整備事業を対象事業として申請しています。

その他にも、国や東京都へ事業に係る交付金等についての相談を行っています。

芹ヶ谷公園"芸術の杜"プロジェクト
DESIGN BOOK

2020.12

目次

はじめに

芹ヶ谷公園がいかにみんなにとって憩い、楽しみの空間になれるか。
芹ヶ谷公園において、いかに生き生きとした、人々の多様な活動や交流が生まれるか。

芹ヶ谷公園の再整備プロジェクトにおいては、芹ヶ谷公園の持つ価値をより輝かせる将来のすがたを、多くの市民の方、そして芹ヶ谷公園や町田の未来に思いのある方と一緒に考えていくためのプロセスを大事にしてきました。

公園の活用アイデアや意見を集めるイベントの開催、町田の未来を考える若者グループや市内学校との連携、子育て世代の方々や近隣の方々、来園者へのアンケートなど、多くの方から、本当にたくさんのアイデアやご意見をいただきました。

そして、市民の皆さんや公園利用者とともに、公園の将来を一緒に考え、活動し、創造していくための取組みもスタートしました。

この『芹ヶ谷公園"芸術の杜"プロジェクト DESIGN BOOK』は、芹ヶ谷公園と（仮称）国際工芸美術館の一体的整備により実現する「パークミュージアム」の、その具体的なすがた（整備計画）をお示しするものです。

町田の多様な文化芸術の活動や豊かな自然を体験しながら、学び楽しむことができる体験型の公園として、町田ならではの価値やアイデンティティ、そして、市内の多様な活動や主体との繋がりを大事にしながら、将来にわたり親しみ愛される公園を皆さまと一緒につくり、育ててまいります。

§ 1_プロジェクトの背景と芹ヶ谷公園の現状

芹ヶ谷公園とは	・・・3
プロジェクトの背景	・・・5
芹ヶ谷公園"芸術の杜"のビジョン	・・・7
芹ヶ谷公園の現況	・・・9
芹ヶ谷公園の価値と資源	・・・15

§ 2_芹ヶ谷公園"芸術の杜"のコンセプト

芹ヶ谷公園"芸術の杜"のコンセプト	・・・19
パークミュージアムのイメージビジュアル	・・・21
パークミュージアムにおける公園活用アイデア	・・・23
市民参加型の公園活用実験プロジェクト 「Made in Serigaya」	・・・27

§ 3_パークミュージアム全体の整備方針

芹ヶ谷公園のゾーニング	・・・33
ステージについて	・・・35
公園空間のあり方について	・・・37
緑の考え方について	・・・39
動線の考え方について	・・・41

§ 4_パークミュージアム全体の整備計画

活動の中心ゾーン「谷のロビー」について	・・・47
「谷のロビー」全体配置図	・・・49
国際版画美術館周辺	・・・51
彫刻噴水周辺	・・・53
多目的広場周辺	・・・55
美術エリアについて	・・・57
美術館と公園の一体的な整備について	・・・59
国際版画美術館と(仮称)国際工芸美術館 の一体的な整備について	・・・61
(仮称)国際工芸美術館の整備について	・・・63
アートステージの整備について	・・・65
タイケンステージの整備について	・・・67
「谷の回廊」全体配置図	・・・69
オオイケステージ&スイケイステージ周辺	・・・71
小田急線線路周辺	・・・73

§ 5_実現にむけたロードマップ

実現に向けたロードマップ	・・・77
--------------	-------

§ 1

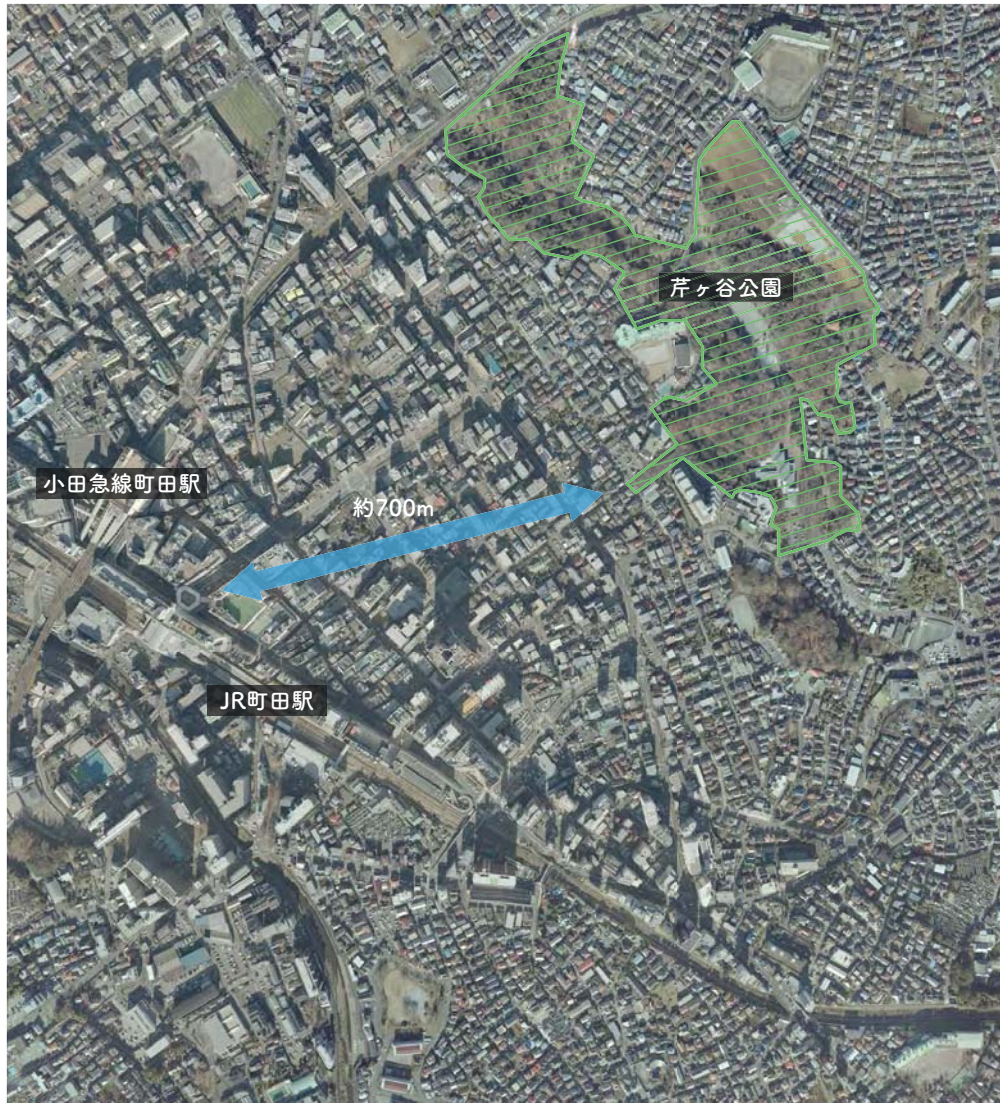
プロジェクトの背景と芹ヶ谷公園の現状

芹ヶ谷公園とは

芹ヶ谷公園は町田駅から北東へ約700m徒歩圏内の距離にある、市街地のシンボリックな公園です。芹ヶ谷公園は恩田川へ注ぐ支流の浸食により形成された谷戸の一つで、谷戸地形がそのまま残されて現在に至っています。

人の往来が多く交通量の多い町田街道に近い場所にある一方で街の喧騒を感じない静かで落ち着いた空間を形成しているのは、谷戸に立地した本公園の大きな特色です。

芹ヶ谷公園に隣接する斜面部や台地部は、住宅や学校が建ち並ぶ密度の高い住宅地となっています。市街地の海の中に浮かぶ緑の島のように、樹林と湧水と一体となった緑と水の織り成す豊かな自然を生かした公園として、散策などを中心に市民の憩いの場となっています。

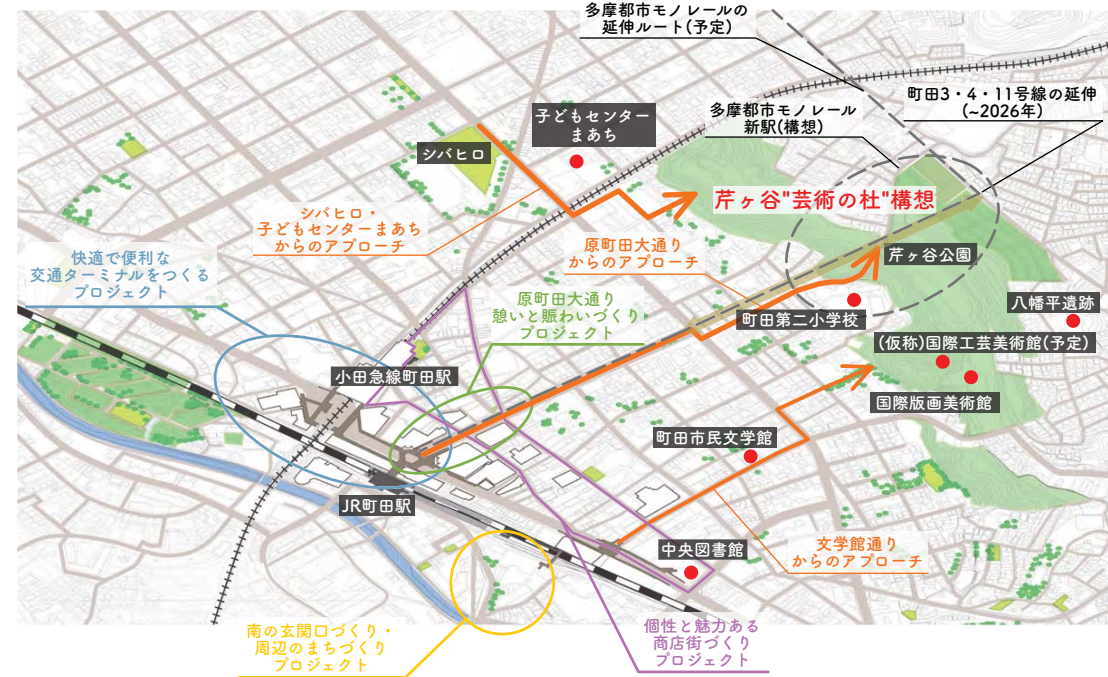


※町田市航空写真：2019年1月撮影

▶ 芹ヶ谷公園と周辺のまちづくりプロジェクトについて

芹ヶ谷公園の周辺では、「町田市中心市街地まちづくり計画」に掲げる10のプロジェクトをはじめ、さまざまなまちづくりに関するプロジェクトが進行しています。芹ヶ谷公園"芸術の杜"プロジェクトはそれら各種のプロジェクトと連携しながらまち全体の魅力、価値を高めるものです。

また、町田3・4・11号線（原町田大通り）の延伸や多摩都市モノレールの延伸などの大規模な事業も進行しており、町田市中心市街地は、そのエリア全体のポテンシャルが向上する大きな環境変化の時を迎えています。



▶ これまでの経緯 -関連する計画等-

- 2011年3月 町田市の博物館等の新たな在り方構想
- 2014年6月 (仮称)町田市立国際工芸美術館整備基本計画
 - ◆「魅せる」「楽しむ」「支える」まちの賑わいに寄与する
 - ◆基本理念「くらしの中の知恵と美」の探求。ガラスと陶磁器を中心。
 - ◆芹ヶ谷公園内(国際版画美術館の北側)に整備すること
- 2016年3月 芹ヶ谷公園再整備基本計画
 - ◆"まちなかで人と緑が会いふれあう 芸術の杜"
 - ◆重点施策である町田駅周辺のまちづくりにおいて、芹ヶ谷公園の魅力を一層向上させることで新たな賑わいを創出
- 2016年7月 町田市中心市街地まちづくり計画
 - ◆"夢"かなうまちへ 10のプロジェクト「町田発アート・カルチャーを楽しむプロジェクト」「周辺資源をみがきまちの魅力として活かすプロジェクト」
- 2020年3月 芹ヶ谷公園"芸術の杜"プロジェクト パークミュージアム CONCEPT BOOK

▶プロジェクトの背景

全国的に高齢化や少子化が進み、多くの自治体が人口減少に直面しています。町田市においても、既に生産年齢人口は減り始めており、今後の町田市の発展にとって特に若年層・子育て世代に選ばれるということは非常に重要です。これからも町田市が選ばれ、愛着を持って住み続けていただけるまちであるためには、子育て世代を支える制度や取組の充実だけに留まらず、さまざまな体験を通して子どもたちが地域と共に学び、楽しみ、成長することができる豊かな環境を作り出すことが重要だと考えています。

また、多摩都市モノレールの延伸事業という町田市のポテンシャル向上につながる大きな変化も始まっています。そこで、この変化の機を捉え、町田駅周辺の貴重な資源のひとつである「芹ヶ谷公園」のさらなる魅力向上を図ることで、新たな賑わいや交流、経済的な価値だけでは測れない潤いや豊かさを生み出し、町田市全体のブランド価値の向上を目指します。

▶芹ヶ谷公園"芸術の杜"

芹ヶ谷公園は、町田駅から徒歩10分程度で訪れることができる自然豊かな公園であり、多くの市民の憩いの空間です。また、芹ヶ谷公園には、全国的にも珍しい版画を専門とした国際版画美術館がある他、自然あふれる空間に彫刻噴水・ソーラー等の美術作品も点在しています。現在は、「町田さくらまつり」や「町田時代祭り」「ゆうゆう版画美術館まつり」などのイベントに市内外から多くの来街者が訪れ、多様な文化芸術を感じることができます。さらに、本町田にある町田市立博物館の老朽化に伴い、芹ヶ谷公園内に(仮称)国際工芸美術館も整備されます。

2016年3月に策定した「芹ヶ谷公園再整備基本計画」では、再整備テーマを「まちなかで人と緑が会いふれあう芸術の杜」と定め、魅力あるまちづくりの一環として、芹ヶ谷公園の整備に取り組んでいるところです。

▶(仮称)国際工芸美術館の整備

施設の老朽化によって町田市立博物館は2019年6月に展示事業を終了しました。その収蔵品を引き継ぐ施設として、芹ヶ谷公園に新たに整備する(仮称)国際工芸美術館は、博物館が所蔵している美術品のうち、国内でも秀でた貴重なコレクションとして特に高い評価を受けている「ガラス」と「陶磁器」に絞った美術館とします。

テーマを「ガラス」と「陶磁器」に絞ることにより、全国的にも貴重な特徴ある美術館となります。その一方で、新しい美術館は特定の層だけの関心や興味を満たすものではなく、親しみやすさや楽しさをキーワードに、多くの人に新たなアートとの出会いやふれあいを提供する場とすべきだと考えています。

▶公園と美術館の一体的な整備

芹ヶ谷公園の第二期整備と(仮称)国際工芸美術館の整備にあたっては、公園と美術館をそれぞれ単体として捉えるのではなく、「芸術の杜」という大きなテーマの中で公園と美術館の一体的な整備を行うことで、公園という市民に開かれた身近な空間が多様なアートに親しむ入り口となることを目指します。

例えば、美術館での美術品の鑑賞に留まらず、芹ヶ谷公園の空間と一体となった参加型のアートプログラムなどが公園の様々な場所で展開されるなど、芹ヶ谷公園の豊かな自然を感じながら多様なアート活動に五感を通じて触れられる体験を提供することで"ここならではの"価値の創出を目指します。

▶ひらかれたプロセスと持続可能性の実現にむけて

これらの新しい公園のあり方を考えるにあたっては、多くの方々の意見を聞き町田市としての考えや思いを丁寧に伝えていくことはもちろんですが、同時に芹ヶ谷公園の将来やあり方を自分事として捉え、一緒に考え、共に創造していく人たちの増やしていくことが重要だと考えています。多様な立場や様々な視点からの声を取り入れていくことで、より多くの人にとって魅力的な芹ヶ谷公園をつくりだすことを目指します。

また、さらなる高齢化や少子化など、これまでと異なる社会状況においても、芹ヶ谷公園が継続的に発展していくためには、町田市と共働して事業推進していくことができる先進性と実現性を持ったパートナーを見つけていくことも重要と考えます。それにあたっての事業形態の検討を進めるとともに、民間事業者へのヒアリングなどにも取り組んでいきます。

▶ 芹ヶ谷公園"芸術の杜"のビジョン

地域の人にとっての憩いの公園であり、市内外から多くの人が訪れる町田市の顔のひとつとなるような"わざわざ訪れたいくなる"、"何度でも訪れたいくなる"多彩な魅力に溢れている、町田を訪れる目的となりえる場。

芹ヶ谷公園は既に多くの市民に愛され親しまれている公園ですが、まだまだその価値や可能性をこれまで以上に大きく広げられる場所であり、これからの町田市にとって重要な場所のひとつです。そこで文化芸術という視点から公園の魅力向上に取り組んでいくことで、経済的な活動だけでは出会うことのない新たな出会いや交流を生み出し、文化芸術の持つ多様な活動を受け止められる懐の深さや町田の人々の暮らしや営みの中にある豊かさを体現できる"ここならではの"場所としていきます。そのために、多くの方々と共に今ある資源を磨き活かしながら文化芸術に対する機運を高めていくことで、"芸術の杜"としての芹ヶ谷公園の価値や意義を高めていくことができると考えています。

緑あふれる公園に、アートという多様かつ魅力的な人々をつなぐ力のある要素が加わることで、これまで以上に芹ヶ谷公園という場が、新たな町田のイメージのひとつをつくるような魅力ある場所となることを目指します。

町田らしい多様なアート・カルチャーを体現する魅力的な企画やイベントが、緑あふれる公園の空間や公園内施設、まちなかと一体となって展開されている。

(仮称)国際工芸美術館や国際版画美術館をはじめとする公園内の施設も含めて公園全体が芸術体験のフィールドとなり、市民の活動の拠点となっていくことを目指します。そのために地域性豊かかつ多様性に富んだ文化プログラムを、市民の方をはじめとした多様な主体と共に展開していきます。この公園全体で展開される様々な体験やプログラムがまちなかへと繋がっていくことで、中心市街地全体に新しい出会いや交流を創出していきます。

また、中心市街地のまちづくりという視点から市民文学館や市立中央図書館、シバヒロ、商店街や駅前大型店舗などのまちなかの施設との連携を図ることはもちろん、例えば公園を含めた中心市街地全体をエリアとした参加型・回遊型のイベントなどを通じた、駅前から芹ヶ谷公園まで歩きたくなるようなまちづくり、空間づくりに取り組みます。

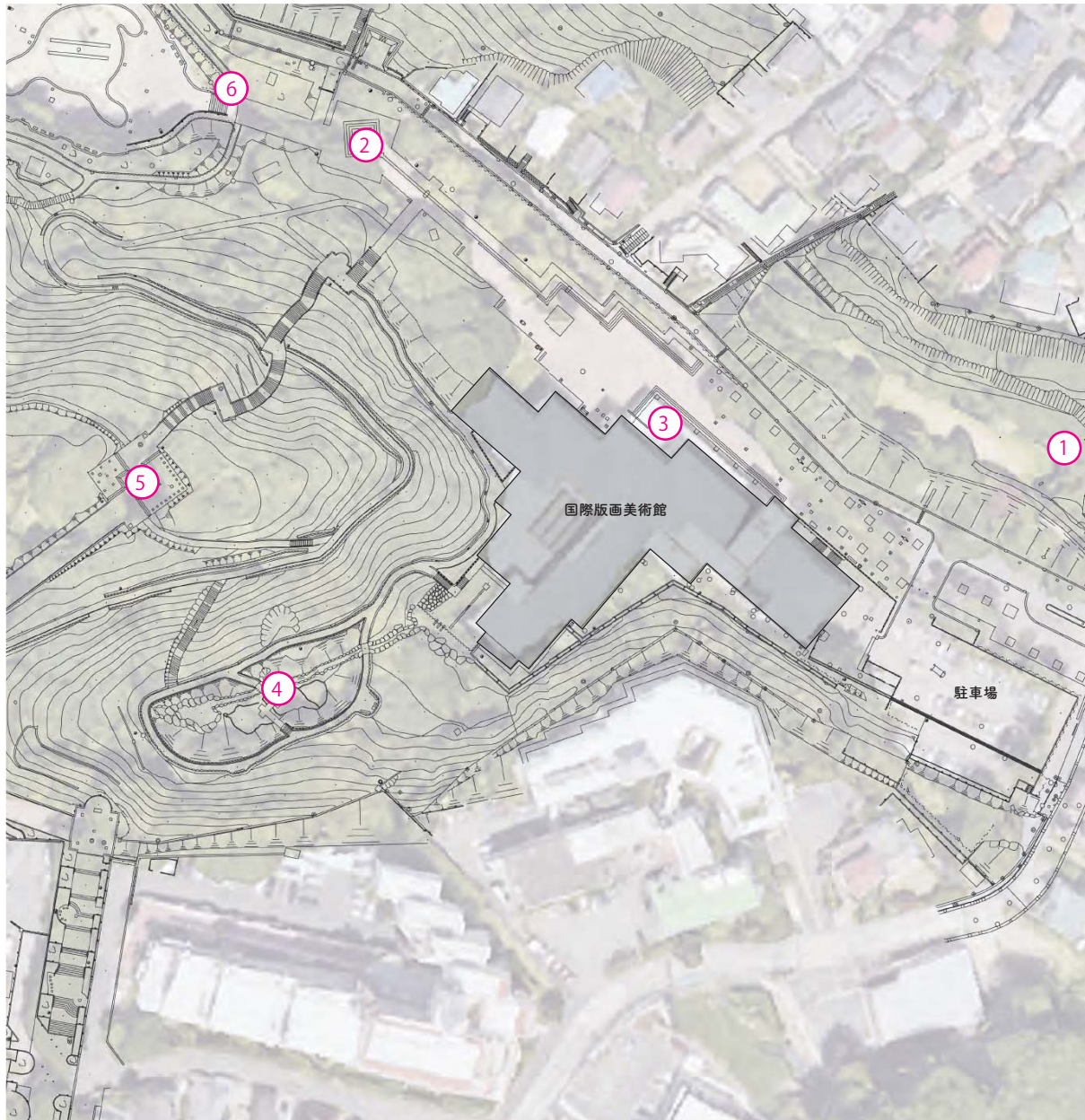
まちなかと公園が一体となり賑わいを創出していくことで、より多くの来街者が訪れるまちづくりを進めていきたいと考えています。

行政だけでなく多様な主体の参画による高付加価値化、広がりが生まれている。

公園という場所は多様な活動のプラットフォームとなりえる空間です。そこで、芹ヶ谷公園という公共空間における新しい空間づくり、仕組みづくり、そして中心市街地のまちづくりを進める上で、"子どもと体験"という視点や、"新たな価値や賑わいを生み町田市の魅力を市内外に発信する"という視点、さらに"芹ヶ谷公園と中心市街地とのつながり"という視点など、広く多角的な視点を持ちながら芹ヶ谷公園の魅力を上昇させていくことを検討していきます。

また、多様な主体、多様な方々が活躍できる場という共生社会の実現という視点、より多くの方に芹ヶ谷公園を訪れていただき楽しんでいただくという視点から、民間との連携を念頭に芹ヶ谷公園の魅力発信や多様なコンテンツの導入や魅力あるプログラムの企画、そして公園そのものをはじめ、(仮称)国際工芸美術館やその他各施設の運営・維持管理等も含めて、芹ヶ谷公園全体のサービスの質を向上させるようなマネジメントのあり方についても検討を進めていきます。

▶国際版画美術館周辺



①町田荘跡地

樹木に囲われ広々とした平地で公園の賑わいからも隔離されており、新しい公園活用の取り組みを行うことができるポテンシャルがあります。一方で、出入口の整備や国際版画美術館との繋がりなど一体的な活用においては課題があります。



②せせらぎ周辺

水が流れる“せせらぎ”の周囲には、夏場になると多くの子どもたちが集まります。老朽化した舗装の修繕や憩いのための設備を整備することで、より快適な水辺空間が生まれると考えられます。



③国際版画美術館

芹ヶ谷公園の顔とも言える国際版画美術館。市民に愛されていますが、開館から30年以上が経ち施設の経年劣化なども見られます。



④もみじ園

窪地で独特の囲われ感があり、水と緑にも恵まれた環境ですが、現在は成長した樹木で鬱蒼としており、高低差などもありアクセスもしづらい状況となっています。



⑤中央口へのアプローチ

町田駅方面からの重要な動線のひとつで、シンボルとなる彫刻もあります。しかしサインの不足等もあり園路がわかりづらく、初めて訪れる人にとっては分かりづらい空間となっています。



⑥彫刻噴水・シーソーへのアプローチ

国際版画美術館から彫刻噴水・シーソーへ向かうアプローチは芹ヶ谷公園の“ヘソ”として多くの人を通る場所ですが、高低差があるため階段があり通路幅も狭まるため、視認性が低く公園の一体感が薄くなってしまっています。



▶多目的広場～グラウンド



⑦第1期整備区域

芹ヶ谷公園再整備の第1期整備区域として、芹ヶ谷公園グラウンドと芝生広場が2020年春にオープンしました。今後、芹ヶ谷公園の他エリアとの回遊性や一体感の形成が必要となってきます。



⑧彫刻噴水・シーズン

芹ヶ谷公園のシンボルである彫刻噴水・シーズンは、特に夏場に多くの家族連れが訪れ水遊びを楽しむ人気スポットです。この場所をより楽しむためのしつらえが求められています。



⑨多目的広場

スポーツをしたり様々なイベントで利用され、春は桜の名所としても賑わいます。周囲からの視認性やアクセスを向上させることで、よりこの場のポテンシャルが発揮されると考えられます。



⑩多目的広場横の2つの谷

多目的広場に寄り添う2つの大きな谷は、現在特に利用されている場所ではありませんが、豊かな自然や独特の地形を楽しめる活動の場となるようなポテンシャルを持っています。



⑪せりがや冒険遊び場

せりがや冒険遊び場は子ども達の人気スポットです。周囲の動線計画の再構築や回遊性を高めることで、魅力をさらに高めていくことができると考えられます。

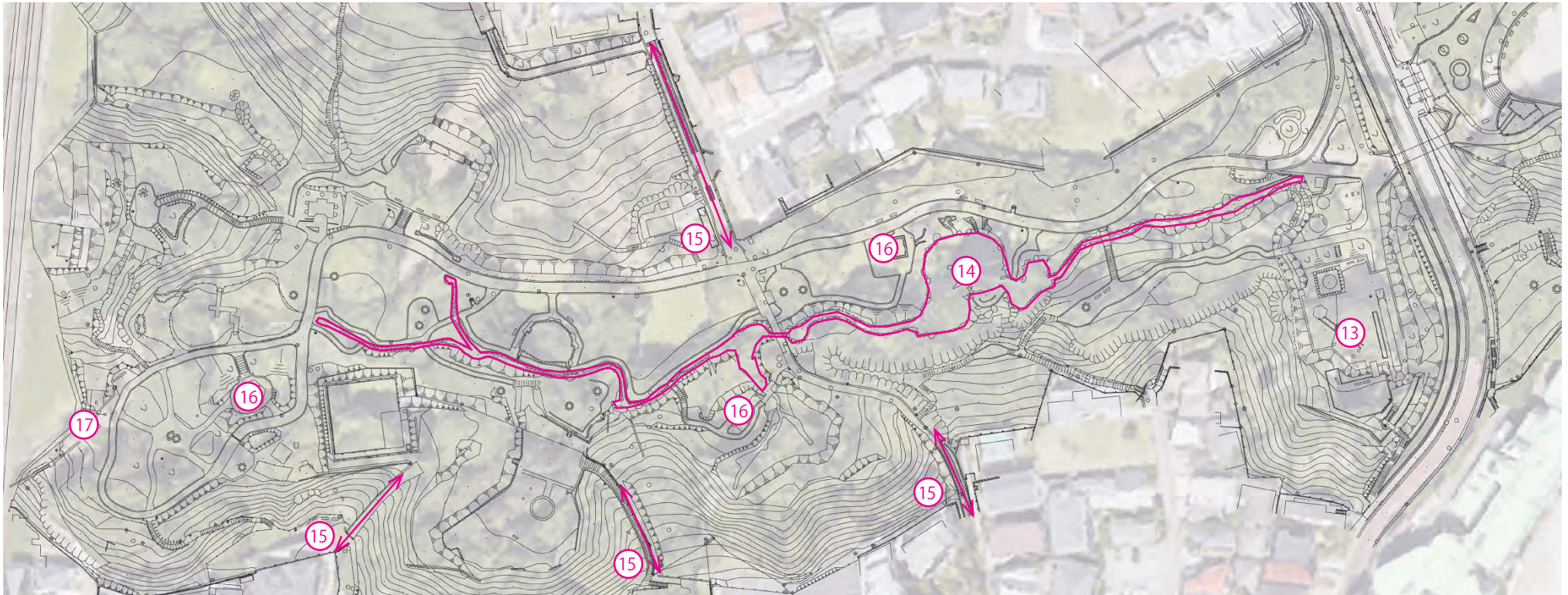


⑫アーチの泉周辺

芹ヶ谷公園内を道路をまたいでつなぐトンネルの出入口であり、また道路から公園への重要な出入口の1つでもある場所です。しかし現状では道路から公園の内部の様子が見えづらく、入り口自体も分かりづらい状況です。



▶冒険広場～カキツバタ園



⑬冒険広場

様々な遊具のある冒険広場は、子ども達に人気の場所ですが、老朽化によって一部修繕が必要な遊具もあります。また、名称もせりがや冒険遊び場と混同しやすく認知されていないのが課題です。



⑭大池と湧き水周辺

湧き水は公園の大きな魅力ですが、現在湧き水を眺めながら散歩ができるような歩道等の回遊動線の整備が十分ではありません。湧き水という資源を活かしたこの場のポテンシャルが発揮されるような整備が必要です。



⑮周辺の町からの出入口

特にこの空間一帯には小さな入口が多くあり、様々な場所からアプローチできる特徴があります。しかしいずれも場所がわかりづらく、サインや統一感のある設えもないため日常的に出入口を利用する人にしか認知されていないのが課題です。



⑯あずまや

特に湧き水の周囲を中心として園内にはいくつかの“あずまや”があるのも特徴となっています。しかしいずれも老朽化しており、屋根下空間の構成として利用人数や利用形態が限られてしまっており使い勝手が良いとはいえないのが現状です。



⑰小田急線 線路沿い

電車の鑑賞スポットとして子どもたちにも人気のスポットです。現状は大きな芹ヶ谷公園の看板が立ち、電車に見せる事に特化していますが、公園と電車との双方の見え方を考えることで場所のポテンシャルを活かすことができます。



芹ヶ谷公園の価値と資源

芹ヶ谷公園には、ここならではの価値と資源が存在します。

この価値を最大化させるような空間づくりがこれから進める整備の重要なポイントになります。

地形

芹ヶ谷公園は恩田川へ注ぐ支流の浸食により形成された谷戸地形がそのまま残された公園です。谷底の空間は台地面より約20m低く、斜面を覆う緑によって公園の内部からは住宅マンション、学校などの周辺建築物が見えない状態がつけられ、良好な状態で内部の景観を保っています。



谷戸地形が残る場所であること

- ・他の公園では見られない、芹ヶ谷公園ならではの地形の価値
- ・谷戸地形がつくる独特の囲われ感
- ・町田駅から徒歩圏内でありながら、喧騒を感じさせない空間を保っています

自然

多摩丘陵の谷戸地形を有する芹ヶ谷公園内では斜面地にコナラクヌギ群集、ムクノキミズキ群落からなる落葉広葉樹林やシラカン群集の常緑樹林などが分布しています。水路や湧水では湿生の植物も見られ、多様な植生が広がり、豊かな環境の中に様々な鳥類や昆虫類をはじめとした動物も生息するなど、中心市街地周辺にいながら身近に自然を感じることができます。



谷がつくる緑や水の風景

- ・谷戸地形ならではの自然の風景
- ・斜面地に広がる緑のレイヤー
- ・園内各所で湧き出る湧水

憩いと賑わい

芹ヶ谷公園は豊かな自然を活かした公園として、散策などを中心に市民の憩いの場となっています。国際版画美術館をはじめとし、園内には芸術作品が展示され、アートを楽しむ場としても市民に親しまれています。園内の多目的広場では年間を通じてイベントが開催され、市内外から多くの来園者が訪れるなど賑わいある空間が形成されています。



谷底が人の集まる場となっていること

- ・国際版画美術館や彫刻噴水、芸術作品など、谷底の空間に集まっている芸術要素
- ・既に多くの人々の活動の場として機能し、賑わいを生み出している広場空間
- ・散策などが楽しめる憩い空間

§ 2

芹ヶ谷公園"芸術の杜"のコンセプト

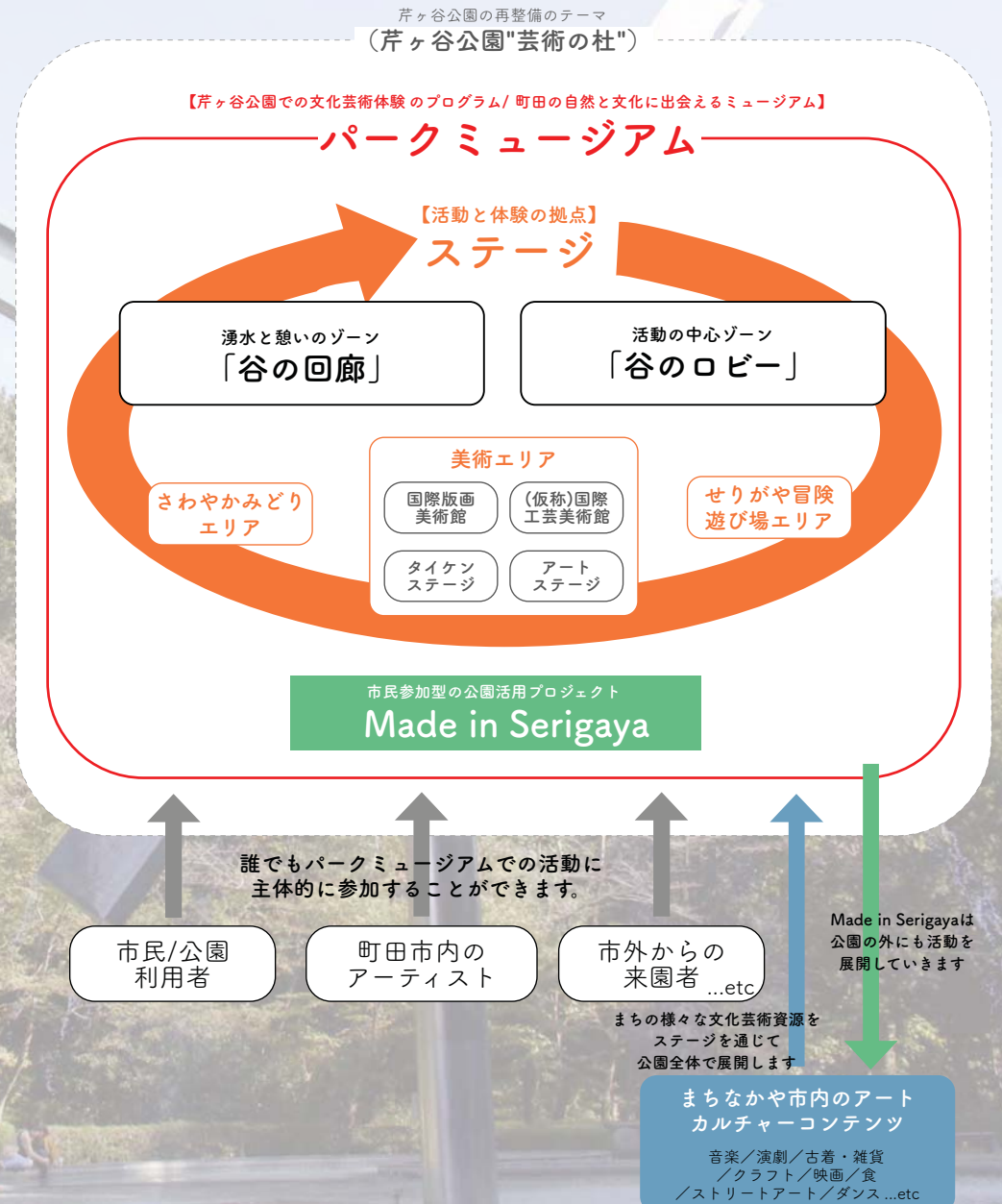
町田の自然と文化に出会える
パークミュージアム

芹ヶ谷公園と（仮称）国際工芸美術館を一体的に整備するに当たり、「芸術の杜」のコンセプトを「パークミュージアム」と名付けました。公園の価値と資源を活かし、まちなかの賑わいと連携させていくことで、町田らしい多様なアート・カルチャーを体現する場となることを目指しています。

パークミュージアムは通常の博物館や美術館のように展示されているものを鑑賞するだけでなく、町田の多様な文化芸術の活動や公園の豊かな自然を体験しながら学び楽しむことができる新しい体験型の公園です。公園内の様々な場所に配置される「ステージ」は、それぞれの空間にあわせた特徴や機能を持っています。ステージで展開される活動は多様です。アーティストなどによる芸術活動はもちろん、遊びや憩い、スポーツや交流などもパークミュージアムにおける大切な文化的活動であり、公園に関わる誰もが主体的に関わることができます。

パークミュージアムはまさに多彩な町田の文化の集積であると同時に新しい文化が創造されていく場として誰にとってもいつでも新しい発見ができる場所です。

▶プロジェクト全体ダイアグラム



パークミュージアムのイメージビジュアル


芹ヶ谷公園全体をフィールドとして様々な活動が展開されていく芹ヶ谷公園の将来像のイメージです。
 芹ヶ谷公園の整備や公園を積極的に活用していくための取り組みを通じて、このような風景が
 芹ヶ谷公園やまちなかに生まれていくことを目指します。




※イラストは、これまでに集まった様々なアイデアをもとに芹ヶ谷公園が活用されている様子のイメージです

パークミュージアムにおける公園活用アイデア


この公園活用アイデア集は面白いが会等のワークショップ等が出たアイデアをまとめたものです。近年、公園等の公共空間の活用を取り巻く環境は変化しており、都市公園法の改正による規制緩和など、都市公園を一層柔軟に使いこなす視点が重視されてきています。 芦ヶ谷公園の再整備においても、これまでのルールや固定観念にとらわれず、素直な気持ちでだれもが本当に楽しめる公園の使い方を考えてみるのが重要だと考えます。まずは、多様な人の柔軟な発想による「こういうことがしたい」「こういう空間が欲しい」というアイデアをより多くの人と共有することで、多くの人に愛され本当に使われる公園の将来像を探っていきます。



グランピング



芦ヶ谷 コーヒー



野外スポーツ

自然体験

食

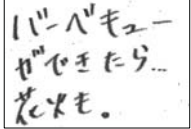
芸術

芦ヶ谷公園で〇〇を楽しみたい！


遊び

快適


その他





バーベキュー
が大好き...
花火も。



ハンモック



サウナ
と水

No.01	自然体験	No.02	自然体験
自然をもっと積極的に楽しみたい		アウトドアを楽しみたい	
			
<p>【idea】ツリーハウス団地/木のぼりの森/木のオーナーになる/でっかい穴をほる(井戸もあり!!土器を見つけるのもあり!!)/駅から近いところでサバイバル体験、火をおこす、食料を採る、テントをはるなど/水遊び/自然見学会/屋外子育て広場</p>		<p>【idea】グランピング(自然を楽しむ、夜のお楽しみ)/テント(ティビ)ライトアップ(夜の公園活用)/泊まれるところ、キャンプ/たき火/キャンプファイヤー/バーベキューや花火/星、月、自然を夜楽しむ公園体験(大人が本気で遊ぶ)/雑草おじさん(食べられるものを見極めてくれる)</p>	

No.03	自然体験	No.04	芸術
動物や生き物とふれあいたい		ライブやパフォーマンスをしたい	
			
<p>【idea】はたる、カブトムシ、ザリガニなどの生息場所がわかる自然マップがあるといい/カブトムシのキャッチ&リリース/釣り堀があったらいい/ドッグラン/犬と一緒に遊べる場所を設定(ドッグランに限らず、お互いの配慮で気持ちよく!)/バードウォッチング</p>		<p>【idea】パフォーマンスができる場所がほしい/自由に使えるピアノ、500円で誰でも弾ける、投げ銭welcome!/美術館ホールで踊ったり/野外ステージ/歌える踊れるステージ/少人数規模で日によって異なる様々なジャンルの音楽のコンサートを定期的開催したい</p>	
No.05	芸術	No.06	芸術
創作活動したい		展示や発表をしたい	
			
<p>【idea】芦ヶ谷公園の土で陶芸をできたらよい/自由に絵をかける/秘密基地(大人版)を作って童心に帰れる/公園発→駅へ気球をつくって飛ばしたい/「木」を使った体験講座。木の枝、おもちゃ、炭づくり、木工/家をつくる(災害時に備えて、サバイバル技術を身につけよう!!)</p>		<p>【idea】公園でうまれたアートを展示する美術館/市民が作ったものを展示する美術館/自分が自分らしくいられる美術館がほしい/子育てにもいい◎/市民による企画展、個展/展示場、アート展示会/芦ヶ谷公園の施設内でワークショップで作られた市民・子どもたちの作品を展示</p>	
No.07	遊び	No.08	遊び
ここでしかできない、特別な遊びをしたい		雨や雪でも楽しみたい	
			
<p>【idea】公園お花け屋敷(肝だめし presented by 子どもたちとシニア)/白い壁があると映画をみたり壁打ちしたり、裏には落書きもできる/芦ヶ谷ソラ公園、ドローン、タコあげ、ブーメラン、花火/大規模実験(コーラパーク)</p>		<p>【idea】雪を集める公園/雨の日限定でウォータースライダー/雨の後でもすぐ座れる水はけのいいベンチ/雨の日、夏の日差しをきつい日にも行きやすいように屋根があるといい/全天候対応の広場(雨だからこそ行ける場所)/泥んこになって遊びたい(大人も!!!)/ドロにまみれたい!</p>	

パークミュージアムにおける公園活用アイデア

No.09	食	No.10	快適
食を楽しみたい		気持ちよくくつろぎたい	
			
<p>【idea】みんなで作るコミュニティカフェ/寺子屋カフェ/芹ヶ谷でコーヒーのみたい。カフェ/四季毎にマルシェなど/芹ヶ谷でお茶を育て、つんで飲んで、飲む、芹ヶ谷公園オリジナル茶/キッチン(BBQ以外)/いろいろ(みんなでご飯を食べる)/お酒をつくる(芹ヶ谷ビール)</p>		<p>【idea】巨大ソファでリラックス公園/公園全体にやわらかいふかふかしたものを敷く/本をよむ(公園の好きな所で!!みんな静かに)/夏は暑いので公園のベンチに屋根(ソーラーパネルとか)があるとき!!/"お昼寝ハンモック"おひとり様ですこせる場所</p>	
No.11	快適	No.12	快適
電源やインフラを充実して 利便性や防災性を高めたい		もっと気軽に安心して利用したい	
			
<p>【idea】Wi-Fiとベンチで充電/聞きたいときに聴けるFMラジオ局(公園専用)/自然の管理と整備。湧き水と緑の整備=資源として活用 ex防災用/災害(多い!)時のテント生活を想定し、公園でキャンプやたきだし体験を定期的に行うとよい。(テントも貸してくれると良い)</p>		<p>【idea】子どもだけで遊べるエリアをつくる/誰でも使えるよりどころを作る/明るいイメージ作り、看板など、敷地内巡回するバス/芹ヶ谷公園お母さんDay/見まもりシェア(みんなで子どもをみまもる)/パウダールームとして使える/インクルーシブ公園</p>	
No.13	交流	No.14	働く
色々な人と交流したい		気持ちよく仕事をしたい	
			
<p>【idea】外国の子どもと地元の虫とり少年と交流ができたら良い/おじいさんおばあさんの超オシャレな社交場/哲学カフェ、老若男女のコミュニティ/彼女と座れるベンチ。オシャレにデートに最適!/オシャレなテラス付レストラン/レンタルスペース/シェアキッチン/シェアカフェ</p>		<p>【idea】お母さんたちが日替わりで個性を生かして出店できるようなシェアカフェができるといい!/この公園を通して雇用を生めたい!!町田のお母さんは町田ではたらくきたい!/芹ヶ谷コワーキング「仕事ができる公園」都心にでなくても働ける/美術関係のワークスペース</p>	

No.15	学ぶ	No.16	イベント
新しい学びを得たい		色々なイベントがしたい	
			
<p>【idea】公園学校(壁はいらない、囲まれていない開放感)/子どもたちにやってはいけないことを教えられる、そして"公園に/本を持ちよって青空図書館(利用者が管理)/学校連携による芹ヶ谷教室、芹ヶ谷を教材に!/"面白い"大人公園、大人が子供に教えられる場所</p>		<p>【idea】町田の店だけのフードフェス/いやしをテーマにしたヨガや音楽のフェス/仲見世のお店が芹ヶ谷に集合/とりあえず芹ヶ谷へ、毎日なかやっている/大型スクリーンでゼルビアのPV/町田市学校集めてスクールフェス/お泊まり美術館/子どもたちによる子どもたちのイベント</p>	
No.17	スポーツ/健康	No.18	菜園/農園/ガーデニング
スポーツなどで体を動かしたい、健康になりたい		植物を育てたい	
			
<p>【idea】泥んこスポーツ(鬼ごっこなど)/サバイバル公園(陣取り合戦、サブゲー)/毎日運動会/サウナと水(サウナで温まったら、噴水へ直行!)/何も持ってなくてもスポーツができる/様々なスポーツ体験。スポーツも文化芸術/ヨガ/散歩</p>		<p>【idea】農家の畑か直売所(生産→食べるまでぜんぶできる)/みんなの菜園公園/段々畑があるとよい/農園/森と水があるので、農家とかと連携して「菜園」とかあると良い(ワサビとか)、その野菜を月に1回子どもと一緒に売り出し食ったり/花、自然/農を体験できる公園</p>	
No.19	移動/まち	No.20	仕組みづくり
公園に行くまでを楽しみたい		公園で楽しむ仕組みをみんなで考えたい	
			
<p>【idea】迷路の魅力(入り口のわかりづらさ)を逆手に取る、町から公園までも楽しむ、色々なところからアプローチする/公園に行くまでの空いている施設を使って通りを活性化!/交通の便、ミニバス、周辺住民や大学等を視野に入れる/レンタサイクル/バス(企業間コラボ)</p>		<p>【idea】公園をキレイにするたびにポイントがたまる「公園サポーターポイント」があったら良い/制限をしない場の提供/財源確保のために市民や民間企業から募る、クラウドファンディング/自分たちでルールを決めてできる公園</p>	

市民参加型の公園活用プロジェクト「Made in Serigaya」について

▶市民参加型の公園活用プロジェクト「Made in Serigaya」

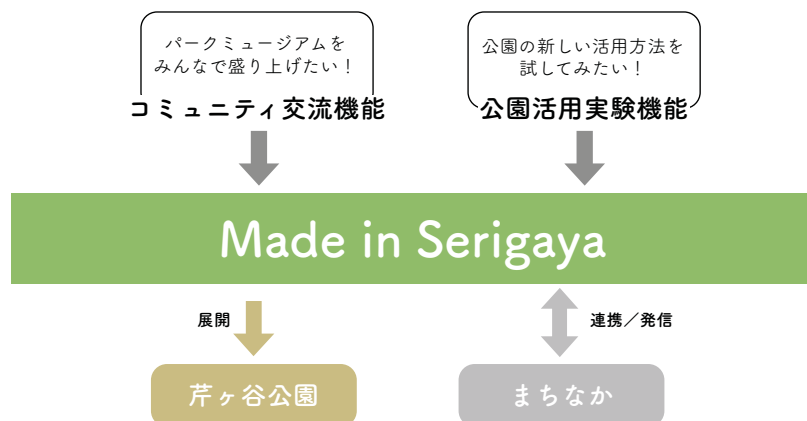


パークミュージアムの実現にむけて、様々な"公園で〇〇したい"という声を集め、実際に様々な公園活用の取り組みをおこなっていくための市民参加型プラットフォームが「Made in Serigaya(メイドイン芹ヶ谷)」です。ここから生まれたアイデアやプロジェクトは、パークミュージアムの取り組みとして芹ヶ谷公園の新たな魅力となっていくことを目指します。芹ヶ谷公園から市民が主体となって町田の文化や自然の魅力を発信し、さらに芹ヶ谷公園から新しい文化を生み出していこうという思いから「Made in Serigaya」と名付けました。

※シンボルマークについて

芹ヶ谷公園から生まれていく新しい活動が世界に羽ばたいていく象徴、そして公園や自由を想起させるモチーフとして鳥をシンボルマークにしました。芹ヶ谷公園の特徴である豊かな木々の「緑」と湧き水の「水色」をテーマカラーとしています。また単純な形の組み合わせによるデザインは老若男女誰もが親しみやすく、かつ積み木のようなイメージで市民が自らの手で文化をつくりあげていくDIY精神を象徴しています。半円が斜めにずれて重なる図形はSerigayaのSの隠れ文字にもなっています。

▶Made in Serigayaの役割と機能について



▶Made in Serigayaの主な活動について

コミュニティ形成と公園活用アイデアの抽出



芹ヶ谷公園を活用していくための開かれたコミュニティとして、多様な人々が交流しながら定期的に作戦会議を開催したり公園活用実験の企画を生み出していくためのプラットフォームとなります。芹ヶ谷公園をもっと良くしていきたいという想いがあれば誰もが参加でき、行政も一体になりながら、芹ヶ谷公園がより誰もが使いやすいやってみたくことを実現できる場となるように、様々な取り組みにチャレンジしていきます。

公園活用実証実験やイベントの企画実施



パークミュージアムの実現に向けて様々な芹ヶ谷公園の活用実証実験を展開していきます。また、町田の多様な文化芸術や公園の豊かな自然を学び楽しむことができる体験型の活動を、実際にみんなで持ち寄り一緒に企画したりしながら、芹ヶ谷公園で実践してみる公園活用イベントなども企画実施していくことで、パークミュージアムだからこそ実現できる町田らしい様々な取り組みが一同に集まる特別な場を生み出していくことも目指します。そして、それらの取り組みを通じてパークミュージアムのコンセプトの共有やメイドイン芹ヶ谷の活動紹介などの情報発信も担っていきます。

市民参加型の公園活用プロジェクト「Made in Serigaya」について

2019 8/24 スタートアップミーティング

芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトの検討をはじめにあって、プロジェクトの趣旨や目指すべき方向性について、そしてこれからの進め方などを市民の皆様様に説明する会として、スタートアップミーティングを開催しました。



2019 9/29 町田を面白がる会 芹ヶ谷公園の未来を考える編

課題解決型アイデア出しイベント「面白がる会」を開催しました。第1回は芹ヶ谷公園の現状の課題をディスカッションしました。



2019 10/10 公園の未来を面白がる会

10月には番外編として、町田市民ではない人々にも知恵を借りようとして場所を変えて東京の茅場町にて面白がる会を開催しました。



2019 11/4 町田を面白がる会 芹ヶ谷公園の新たな使い方を考える編

第1回で抽出した課題と番外編で生まれたアイデアをヒントにしながら、芹ヶ谷公園の新たな使い方をみんなで考えました。



2020 1/26 パークミュージアムラボ#0 ファイアーミーティング/まだ見たことのない光・幻想公園

芹ヶ谷公園活用実験の具体的な取組みのひとつである「パークミュージアムラボ」。そのプレイベントとして、これまで集めた「公園で〇〇したい」というアイデアの中から「たき火」「食を楽しむ」を実験として組み込んだ「ファイアーミーティング」と、桜美林大学と連携した光を使ったインスタレーションを実施しました。



2020 2/22 パークミュージアムラボ#1 "〇〇したい"を叶える公園の使い方

記念すべきパークミュージアムラボの第1回は、「プレイスメイキング」著者の園田聡さんをゲストにおむかえして開催しました。



2020 4/28 パークミュージアムラボ特別編 うちで考えるこれからの公園

生まれなくても公園の未来を考えるオンラインイベントを、南池袋公園の運営に携わる青木純さんをゲストに開催しました。



2020 5月~ Made in Serigaya アジト

どんな公園の使い方ができるかを考えるオンラインミーティングを重ね、まずは自分たちで芹ヶ谷公園を実際に楽しんでみようとして「小さな公園活用実験」を実施しました。



2020 6/19 パークミュージアムラボ#2 親子にとっての公園のある豊かな暮らしとは?

オンラインでのパークミュージアムラボの第2弾として、親子にとっての公園のある豊かな暮らしをテーマに座談会を開催しました。

2020 8/7 パークミュージアムラボ#3 公園を舞台としたアートの可能性 ~アートのある公園が創る新たな未来~

アートのある公園が創る新たな未来を発見するトークセッションを実施し、「公園を舞台としたアートの可能性」について様々な角度から語り合いました。

2020 11/14,15 Future Park Lab 芹ヶ谷公園の将来の姿を想像する

将来の芹ヶ谷公園の風景を実現する取組として、ライブペインティング、公園宿泊、ライトアップ、アート展示などを行いました。



§ 3

パークミュージアム全体の整備方針

「谷のロビー」と「谷の回廊」を中心に、公園全体をパークミュージアムの活動フィールドとして一体的に活用します。

谷の回廊：湧き水と憩いのゾーン

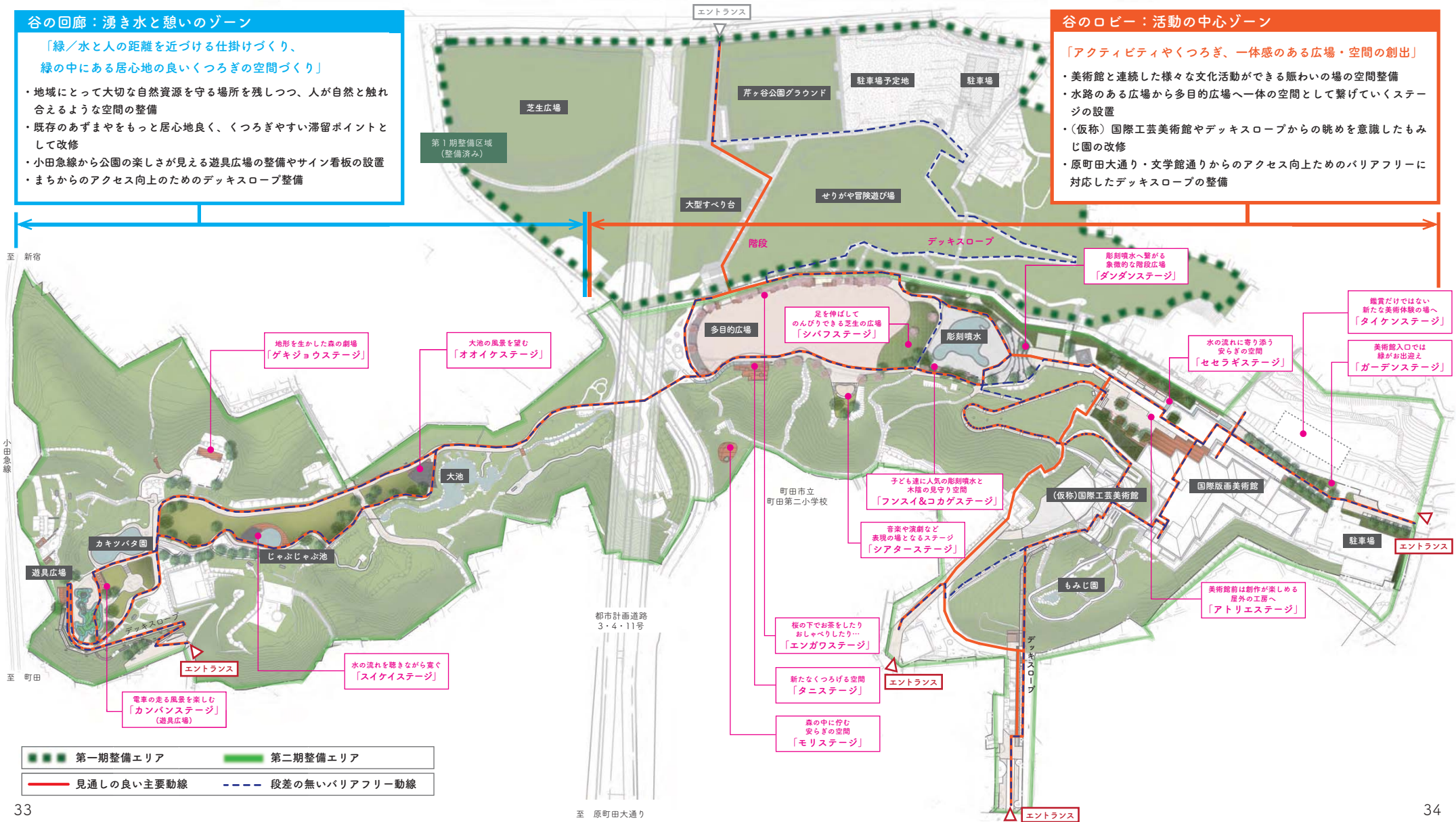
「緑／水と人の距離を近づける仕掛けづくり、緑の中にある居心地の良いくつろぎの空間づくり」

- ・地域にとって大切な自然資源を守る場所を残しつつ、人が自然と触れ合えるような空間の整備
- ・既存のあずまやをもっと居心地良く、くつろぎやすい滞留ポイントとして改修
- ・小田急線から公園の楽しさが見える遊具広場の整備やサイン看板の設置
- ・まちからのアクセス向上のためのデッキスロープ整備

谷のロビー：活動の中心ゾーン

「アクティビティやくつろぎ、一体感のある広場・空間の創出」

- ・美術館と連続した様々な文化活動ができる賑わいの場の空間整備
- ・水路のある広場から多目的広場へ一体の空間として繋げていくステージの設置
- ・(仮称)国際工芸美術館やデッキスロープからの眺めを意識したもみじ園の改修
- ・原町田大通り・文学館通りからのアクセス向上のためのバリアフリーに対応したデッキスロープの整備



ステージについて

▶ステージとは？

ステージとはパークミュージアムにおける文化芸術と自然の体験型プログラムの拠点となる場所です。公園内の様々な場所にそれぞれの空間にあわせた特徴や機能を持ったステージを配置します。ステージを拠点にあらゆる活動が展開されることで公園を訪れた人々は町田の多様な文化芸術や公園の豊かな自然を体験することができます。また、ステージで展開される活動は多岐にわたり、アーティストなどによる創造的な文化芸術活動はもちろん、遊びや憩い、スポーツや交流などもパークミュージアムにおける大切な文化的活動です。

様々な活動

様々な文化芸術と自然の体験型の活動が展開されます



様々なかたち

場所や機能、活用方法などに応じて様々なかたちのステージがうまれていきます



▶ステージの活用イメージ（2020年11月14,15日 Future Park Lab 2020公園活用実証実験より）



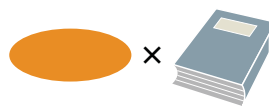
【例えば】
公園の多様なシーンで音楽ライブをする

芹ヶ谷公園の色々な舞台にして町田ゆかりのアーティストによる青空コンサートを開催。その一つ、噴水彫刻の前では、豊かな楽器の音色に、噴水の水しぶきの音ときらめきが更なる演出を加えていました。



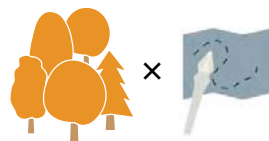
【例えば】
特別なくまに自由にお絵かきする

民間事業者の地域貢献プログラムにより、自由のお絵かきできるクルマを設置。真っ白なボディを大きなキャンパスにしていつもとは違う特別なお絵かき体験の場になりました。



【例えば】
広場での青空図書館やお話を開催する

いつもの広場が図書館やお話会のステージに。親子で紙芝居を楽しむ姿も。公園でお気に入りの本に出合える場になりました。



【例えば】
芹ヶ谷の豊かな自然の中にアート展示をする

秋深まる公園の自然の豊かな色彩の中で、クラフト工房LaMano（福祉作業の一環として、障がいのある方の表現やアート活動を行う）と、博物館の作品の紹介展示を楽しんで頂きました。

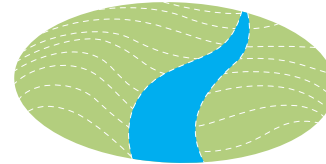
谷と水と人をつなぐ空間を創出します。

芹ヶ谷公園の最大の特徴でもある「谷地形」。この環境がもたらす自然とともに人々の活動が生まれる場の創出を公園整備では目指していきます。

谷ならではの湧き水や、子ども達に大人気の彫刻噴水など芹ヶ谷公園には、水を活用した既存の水施設がいくつも存在します。それらを生かし、水の流れる谷に沿って谷のロビーや谷の回廊を整備することで、水の流れを辿ると園内を一周できるような空間となり園内全体を楽しんでいただけます。またそれは、谷という自然環境を感じてもらえるような計画でもあります。

そして、水に寄り添うロビー／回廊にステージが付随することによって、この環境でしか体験できない多様な人々の活動が生まれます。

DIAGRAM



① 芹ヶ谷を整ぐ水



② 水沿いに谷のロビー／回廊を整備



③ ロビー／回廊に沿ってステージを配置



芹ヶ谷が持つ豊かな自然を守り未来につなぎます。

4つの整備方針

1. 植生の多様化に向けて緑の更新を行います

健全な樹林の環境をつくるために若い樹木の成長を促進させ、遷移の進む里山の樹林環境を更新していきます。

2. 湧水を保護しながらも、触れ合える場とします

敷地に流れる湧水は蛍が生息するなどこの公園を特徴づける大切な資源です。大切に保護するとともに、身近にふれあえる場所も確保します。

3. 安心感のある明るい環境づくりを行います

誰もが安心して様々な活動ができる空間をつくるため、緑を大切にしつつ、明るく開けた整備を行います。

4. 自然に親しみ魅力を伝えるための工夫を行います

芹ヶ谷公園に生息する動物や植物のなかには、希少種とされているものも存在します。これらを大切に保護しながら、多様性のある風景づくりを行うと共に、その魅力を発信できる工夫もしていきます。

緑の整備ゾーニング

第二期整備における緑の整備については上記を全体方針として掲げながら、3つのエリアに分けて整備・管理方針を設定します。

■ 谷の自然環境を大切にすエリア

まとまりのある樹林地となっているエリアは、芹ヶ谷公園が本来持つ自然環境を保全するエリアとします。良好な自然環境維持のために、樹木の剪定・伐採も含め、適切な管理を行なっていきます。

■ 人の居場所を大切にすエリア

谷底は人々の活動を支える場として、見通しの確保や居場所の整備のために、中低木を中心に樹木の伐採を行います。加えて、人々に緑陰や季節ごと違った風景を提供できるような植栽を行います。

■ 人と緑の関わりをつくるエリア

斜面地と谷底の境界部や街との接点である園路周りは、谷の自然を楽しみながらも、来園者が安全安心に回遊できる動線となるように、地面に光が差し込むように高木を剪定したり、視線を遮る中低木の伐採を一部行います。

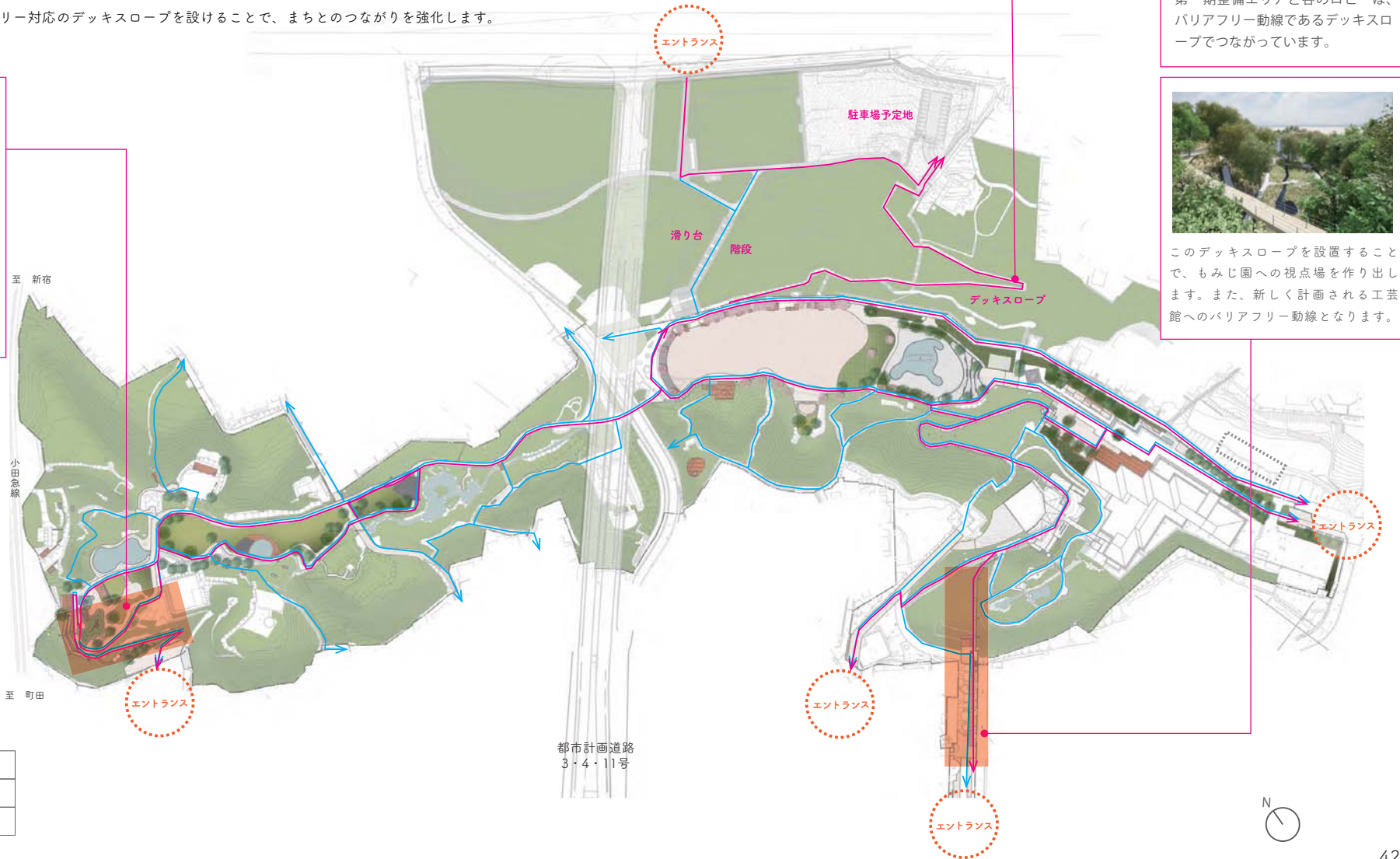


公園の入り口と園内の施設同士をつなぐ、豊かな緑とアート&カルチャーを楽しみながら、だれもが利用しやすい回遊動線を生み出します。

5ヶ所のエントランスを結ぶバリアフリー動線を設けることで、公園全体の回遊性を高めます。また、駅前からの主動線となるエントランスには、新たにバリアフリー対応のデッキスロープを設けることで、まちとのつながりを強化します。



このデッキスロープを設置することで、このエリアのバリアフリー動線を生み出すと共に、カンパンステージ（遊具広場）への視点場を生み出します。



1期デッキスロープ
第一期整備エリアと谷のロビーは、バリアフリー動線であるデッキスロープでつながっています。



このデッキスロープを設置することで、もみじ園への視点場を作り出します。また、新しく計画される工芸館へのバリアフリー動線となります。

	バリアフリー動線
	歩行者動線
	新設デッキスロープ

都市計画道路
3・4・11号

動線の考え方について

▶サインの考え方について

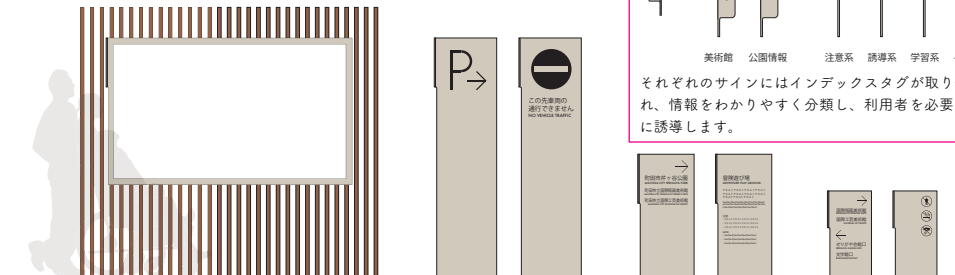
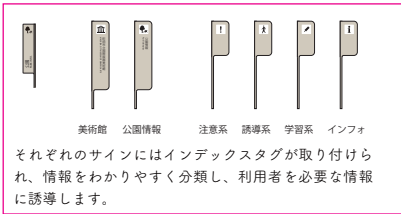
芹ヶ谷公園の全てを案内する 「芹ヶ谷インデックス」

芹ヶ谷公園内に設置するサインは「芹ヶ谷インデックス」をコンセプトに、施設案内や誘導など来園者が公園を利用する上でのサポート機能や、公園内で行われる様々なイベントやプログラムを紹介する情報提供機能、さらには芹ヶ谷公園の様々な動植物を紹介する図鑑機能を備えたサインを統一されたデザインで公園内全体に展開し、芹ヶ谷公園で行われる様々な人々の活動を支えます。

掲示内容の例：公園情報（園内のイベントや季節の見どころなど）、美術館情報（展示会やイベントのお知らせなど）



エントランスなど、人々の目につきやすいところには、情報をしっかりと掲示して訪れた人々にパークミュージアム全体を楽しんでもらえるような計画とします。



サインのデザインを統一し、種類を制限することでよりわかりやすいサイン計画を行います。

▶照明の考え方について

園内の特性に合わせた光による 空間づくり

谷のロビー、谷の回廊それぞれのエリアごとのコンセプトを踏まえ、落ち着いた雰囲気のある夜間景観の醸成を行います。また、ステージ等にも照明を配置し夜間イベントにも対応することによって、園内の魅力的な空間演出を行います。



谷のロビーのベース照明となる、ポール照明



谷の回廊を灯すガーデンライト。回廊は全体的に夜間照度を押さえて、足元のあかりは保ちつつ自然環境に配慮した計画とします。



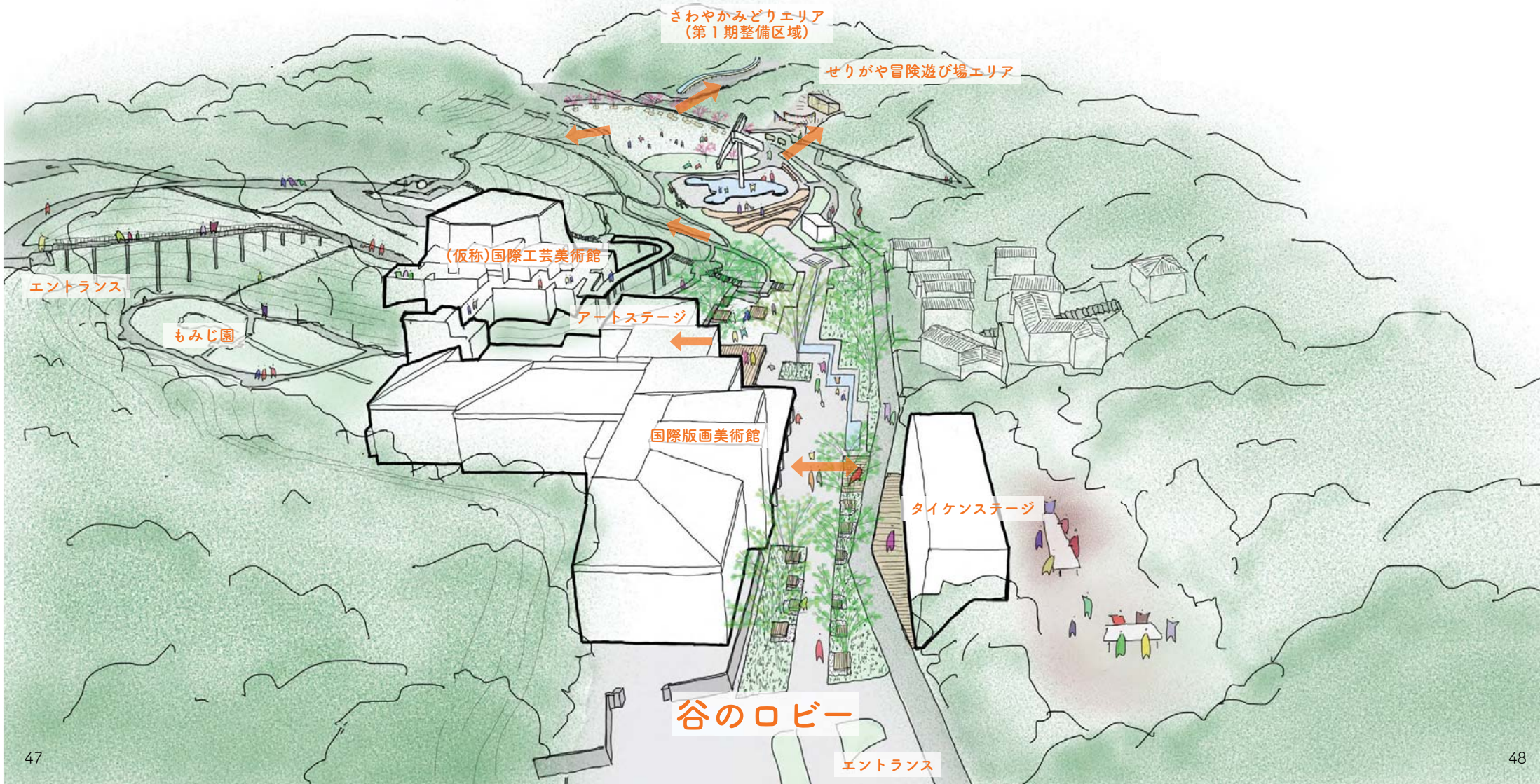
各ステージに設置されるスポットライト照明。必要な時だけ点灯できるようになります。

§ 4

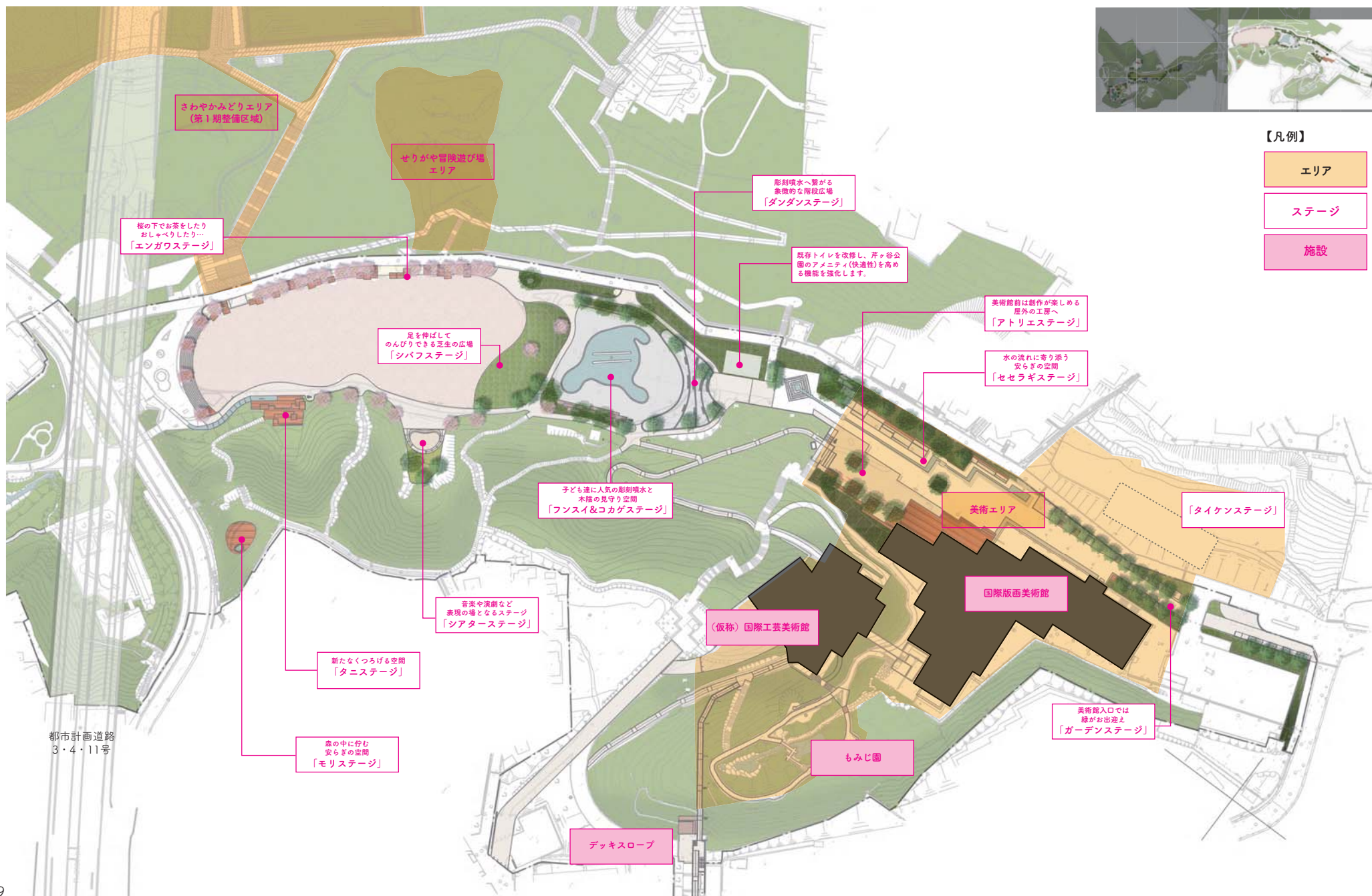
パークミュージアム全体の整備計画

多様なステージが集う活動の中心ゾーン 「谷のロビー」

谷のロビーは様々なアクティビティが共存するにぎやかな空間です。美術エリアなどの"エリア"と、様々なかたちの"ステージ"が面する活動的な空間構成です。谷のロビーと周辺エリアとの連続性が重要であり、ステージの整備とあわせてロビーを分断する段差やスロープや生け垣などを見直しながら面的な広がりを創出します。

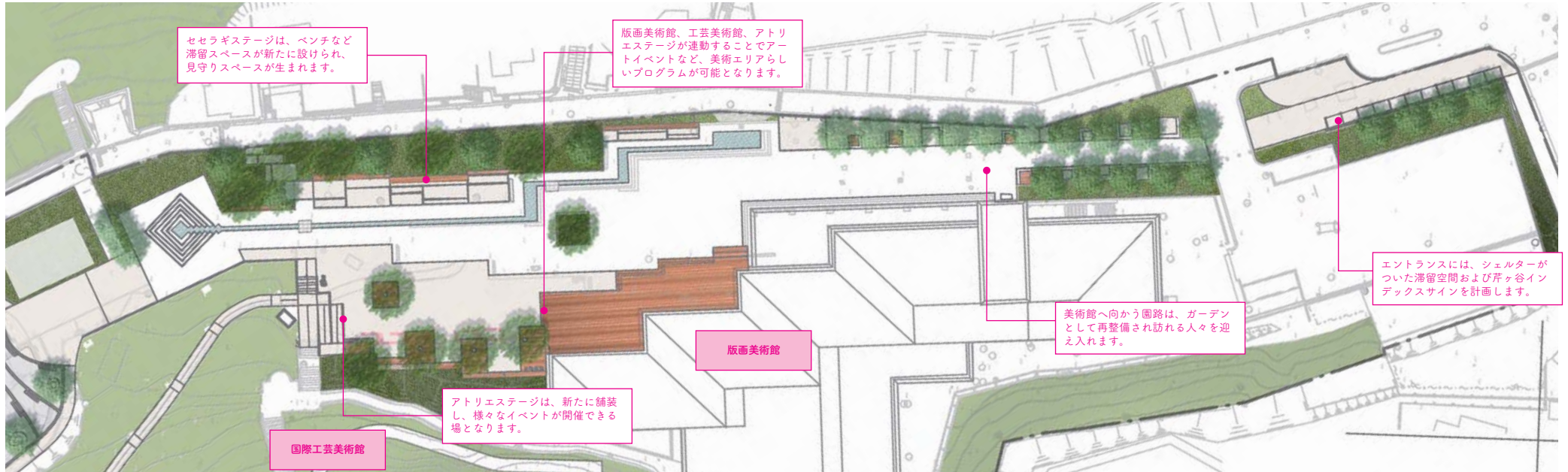


「谷のロビー」全体配置図



美術館を拠点としたアート&カルチャーの発信地

国際版画美術館周辺には、エントランス空間となる「ガーデンステージ」、イベント開催を想定して新たに舗装された広場空間「アトリエステージ」、水路を中心とした「セセラギステージ」という3つのステージを整備します。ガーデンステージは、多くの人々を迎え入れるための空間として、サインや滞留スペース、そして緑のガーデンを整備します。「アトリエステージ」は、ワークショップをはじめとした体験型のアートイベントなどが開催できる設えを持ったイベント広場となります。「セセラギステージ」は、水遊びする子どもを見守るためのベンチ、スペースを整備します。



工芸美術館からセセラギステージを臨む。



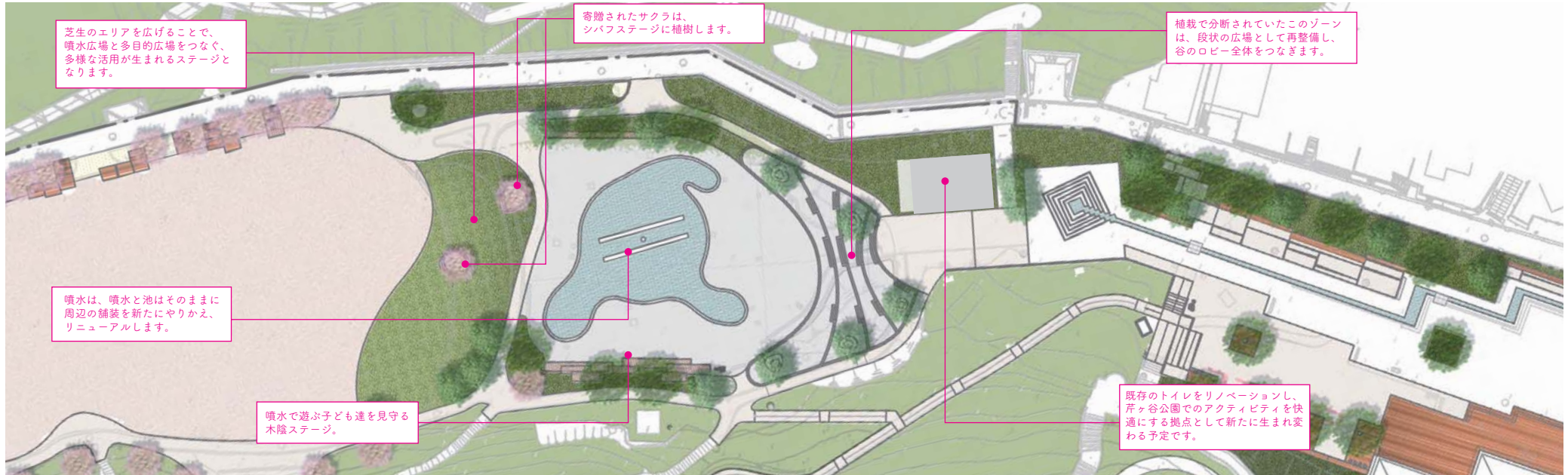
アトリエステージ。新たに舗装され、様々なイベントが開催可能な場となります。



芹ヶ谷公園のエントランス。芹ヶ谷インデックスサインと滞留スペース(屋根付き)を計画し、人々を迎え入れます。

大人気の噴水アートと周辺に生まれるステージ

谷のロビー中心部にある大人気の彫刻噴水周辺では、美術エリアと多目的広場側の見通しをよくするため、視界を遮っている植栽を減らし、ロビー全体の一体感を作り出します。また、噴水を中心にその周辺には、高低差を生かした階段広場「ダンダンスステージ」や、噴水で遊ぶ子どもたちを見守る「コカゲステージ」、足を伸ばしてのんびりできる「シバフスステージ」を整備します。ゆっくりと寛げる日常的な「居場所」を整え、様々なアクティビティの展開や、多目的広場で行われるイベントなどと連動した活用を行います。



多目的広場から「シバフスステージ」ごしに噴水アートを見る。シバフスステージにはサクラなど樹木が植えられます。



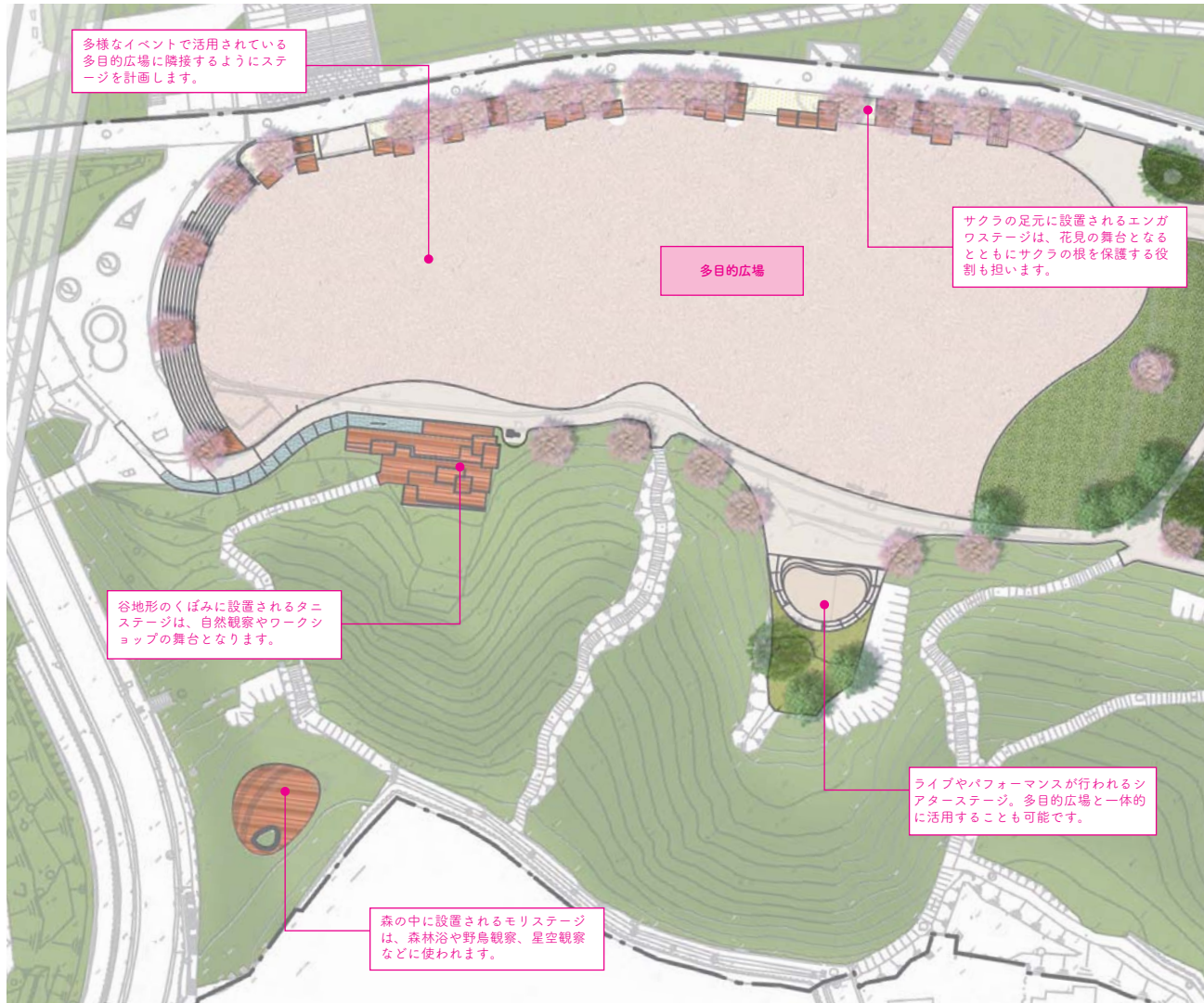
噴水周りの樹木など、視界を遮っているものを廃し、美術エリアから多目的広場まで視線の抜けをつくります。



ダンダンスステージから噴水アートを見る。

芹ヶ谷公園らしい活動が行われるアクティブなエリア

流鏝馬やさくらまつりの舞台となる多目的広場は、芹ヶ谷公園らしい地形の特徴を生かしたアクティブなプログラムが展開される広場になります。「エンガウステージ」は、普段は憩いの空間として、サクラの見頃の時は花見の舞台として活用されます。「シアターステージ」は、谷を背景に音楽やダンスなどが行えるような、この場所ならではの舞台空間を創出します。「タニステージ」は滞留空間としてだけでなく、自然観察など様々なワークショップが開催される場所となります。谷を形成する森の中にも森林浴など芹ヶ谷の自然を堪能できる「モリステージ」を整備します。



花見の舞台にもなるエンガウステージ。多目的広場を眺める場ともなります。



シアターステージ。ライブやダンスなどの舞台となります。



タニステージ。階段状に作られたステージは、自然観察やワークショップなどのプログラムが開催可能です。

公園と連続し、パークミュージアムへと 美術活動を展開する拠点「美術エリア」を整備します

“パークミュージアム”は、通常の博物館や美術館のように展示されているものを鑑賞するだけでなく、町田の多様な文化芸術の活動や公園の豊かな自然を体験しながら学び楽しむことができる新しい体験型の公園を意味しています。

特徴的な谷戸地形や緑、湧水など、芹ヶ谷公園の恵まれた自然を感じながら、誰もが多様なアート活動に五感を通じて触れられる“ここならではの”体験を提供します。

芹ヶ谷公園との一体的な整備にあたり、美術館の整備においても、町田らしい多様なアート・カルチャーを体現する魅力的な企画やイベントが、美術館に留まらず、緑あふれる公園の空間やまちなかと一体となって展開されている“パークミュージアム”ならではの、みんなに親しまれ愛され続ける美術館を目指します。



▶文化芸術・自然との出会い方を演出する「冒険的回遊性」

芹ヶ谷公園で見つけた谷地形の冒険的な体験や魅力を、美術館に限らず、公園内に点在するステージのデザインに取り入れ、美術エリア全体に「冒険的回遊性」を生み出します。文化芸術・自然との出会い方を演出することで、芹ヶ谷公園を訪れる人たちが日常生活の中で多様な文化芸術に触れられる接点を増やします。



先を想像しながら、曲がりくねった園路を登る。歩いていて楽しい森の中の道。



園路を登っていると、もみじ園や広場を高い位置から望む風景と出会う。



トンネルを抜けると、視界が開け、また違った風景が広がっている。



谷の奥の方へ行くと、そこには子ども達の遊び場空間が潜んでいる。

▶芹ヶ谷公園の「冒険的回遊性」を活かした散策動線

①既存の園路からもみじテラスに渡る

新たに整備する(仮称)国際工芸美術館の屋上テラスは、既存の園路と接続された新たな園路となります。



②もみじテラスからもみじ園を望む

もみじ園を上から見下ろす新たなビュースポットとなります。



③(仮称)国際工芸美術館ロビーを見下ろす

園路の途中にロビーを見下ろすことのできるスポットをいくつか設けることで、日常の中に美術との出会いを作ります。



④せせらぎテラスから谷のロビーへと繋がる

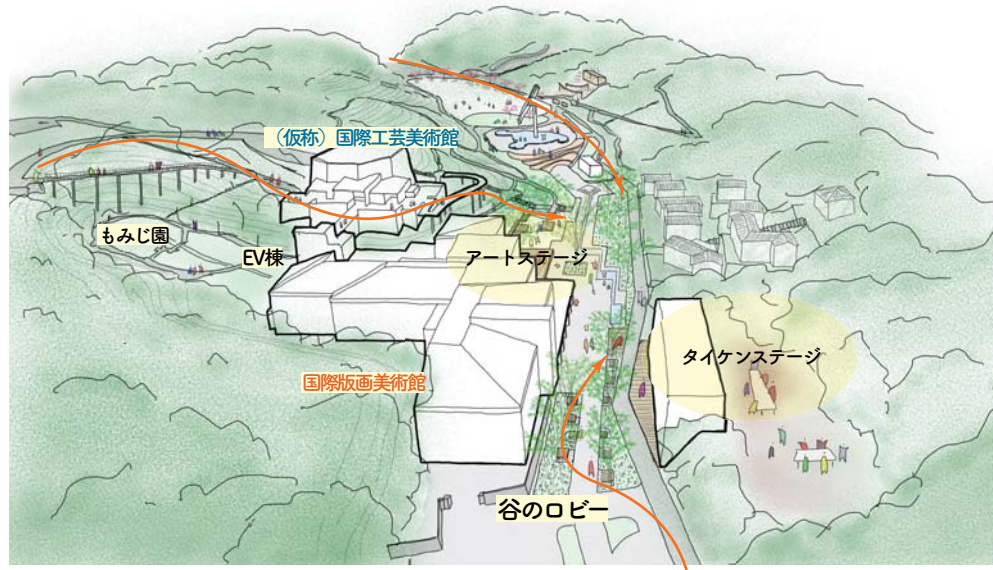
森の中を歩く空中スロープと繋がるせせらぎテラスでは、谷のロビーを眺める場所となります。



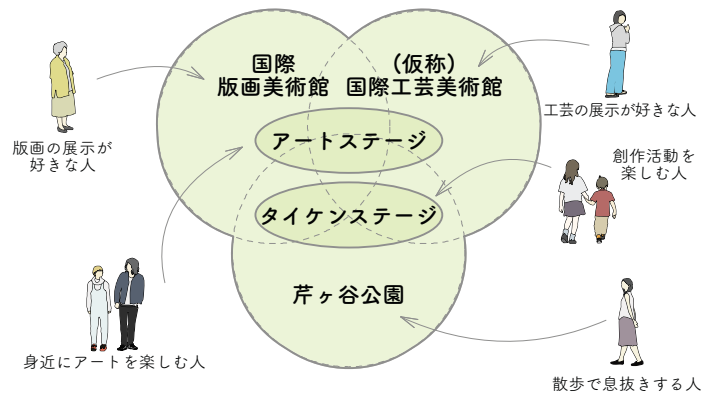
美術館と公園の一体的な整備について

▶谷のロビーを中心とした美術エリアの形成

美術エリアには、パークミュージアムに美術活動が展開していく場として、(仮称)国際工芸美術館の整備とあわせて新たに「アートステージ」や「タイクンステージ」など、美術活動をより身近に感じられる場や、多様な創作活動が行える場を整備します。



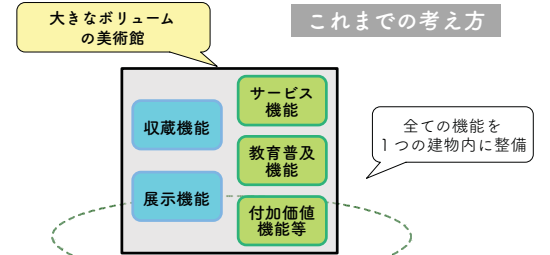
2つの美術館と公園の活動や空間の繋がりを生む新たなステージの整備により、より多くのひとが集い、多様な文化芸術に親しむ場と機会を提供します。



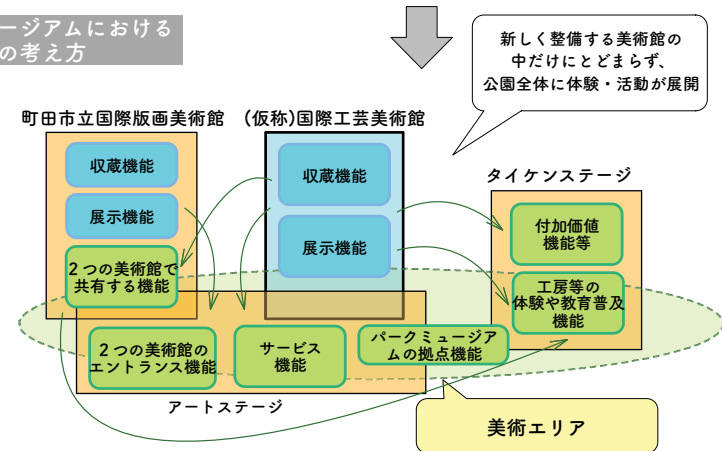
▶美術館における様々な機能を公園内に再配置します

美術館のコアとなる機能(展示・収蔵等)を中心としたコンパクトな(仮称)国際工芸美術館を整備する一方で各種のサービス機能や工房等の体験や教育普及機能については公園全体の施設や機能と一体的に捉え、効果的・効率的な機能の再配置を行い、新たに美術エリアを形成します。

公園内に展開された機能はパークミュージアムの体験・活動ステージとなり、公園に求められる機能を充足するとともに、公園を訪れる多様な人々が気軽に文化芸術に触れられる場になります。

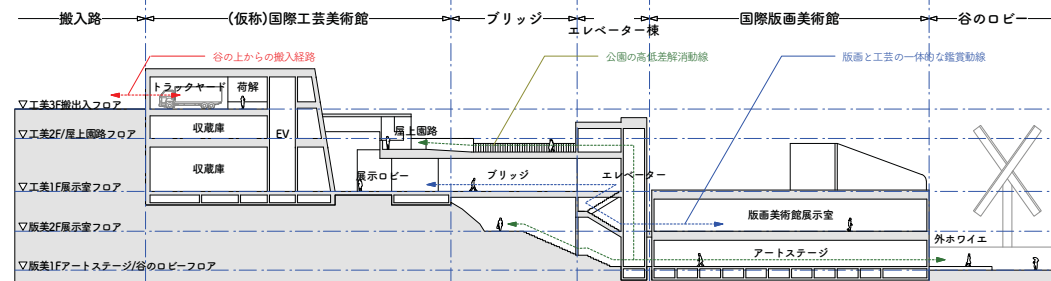


パークミュージアムにおける美術エリアの考え方



▶地形を活かした断面計画

美術館を介した新たな動線が公園内の高低差を解消し、まちなかの回遊性創出に寄与します。また、収蔵庫やバックヤードを集約することで、機能的で合理的な計画とすることができます。そして高低差によって公園から連続してアプローチすることができる展示室の屋上空間を、公園を楽しむ新たな園路として再構築することで、動線的にも公園と一体となった計画となります。



▶国際版画美術館と
(仮称)国際工芸美術館の
一体的な整備計画について

統合・拡張された
美術館

国際版画美術館、(仮称)国際工芸美術館を一体的に統合・拡張整備するとともに、芦ヶ谷公園とも連続し一体感を感じることができるよう計画することで、パークミュージアムにおける美術体験の拠点となります。

ひらかれた美術館

創作と対話を目的とする"こと"のためのアートセンター機能を担う「アートステージ」を、新たに現在の国際版画美術館内に計画します。様々な人々が多様な方法で美術館に参加することができる新たな美術館のあり方を検討していきます。

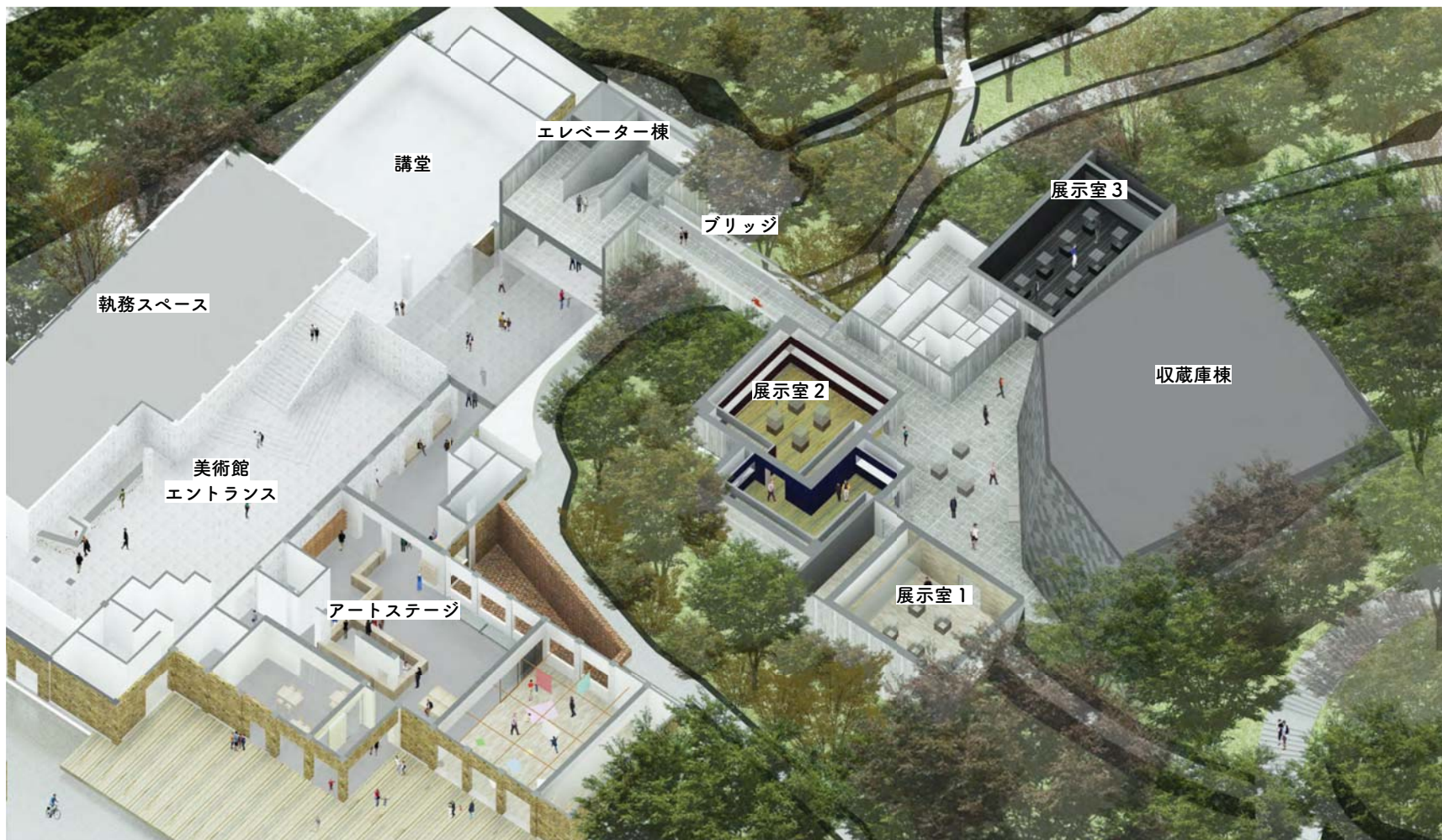
▶(仮称)国際工芸美術館の
整備計画について

ランドスケープと
一体となった美術館

国際版画美術館と連続する適切な位置に公園の谷地形に沿った配置を計画します。バリアフリールートとなるエレベータとともに、ランドスケープと一体となった回遊性を持つ美術館となります。

コンパクトな美術館

展示機能と収蔵機能を中心としたコンパクトな美術館を計画することで、建築面積を最小限にする計画です。サービス機能や体験機能、教育普及機能は公園全体で効果的・効率的に機能配置します。



▶国際版画美術館と(仮称)国際工芸美術館の
一体的な執務スペースの整備計画について

国際版画美術館・(仮称)国際工芸美術館のスタッフ執務スペースを国際版画美術館の既存バックヤードに一体的に整備することで、両美術館の執務スペースの効率化を図り、スタッフの業務連携やコミュニケーションの円滑化を促します。

パークミュージアムにおいて、一体整備後の美術館では、アートステージの企画や谷のロビーのイベントなど、分野を超えた様々な人々との協働の機会が増えることが想定されます。執務スペースはスタッフの働きやすい環境を整え、異なる職種のスタッフ間にもコミュニケーションが生まれ、これからの美術館の運営企画を積極的に考えられるようなスペースとして計画していきます。

ゾーニングと動線の整理による
使いやすい執務スペースの確保

両美術館スタッフによる執務スペースの共有化に対して、今までの使い勝手の良さを残しながら、適切なゾーニング、動線計画を行います。既存間仕切りを一部撤去し、必要スペースの拡充を図ると同時に、学芸員ゾーンではデスクまわりの資料スペース等にも配慮した計画とします。

展示会準備や打合せに利用できる
プロジェクトルームの設置

執務スペースのエリアに、複数の独立した「プロジェクトルーム」を設置します。学芸員が展示会の企画打合せ〜準備作業などの集中した執務を行えるなど、より充実した展示をプロデュースするための拠点となります。部屋の中の様子が見える設えとすることで、他のスタッフにもリアルタイムで状況が共有できます。

スタッフ間のコミュニケーション
促進やアメニティーへの配慮

美術館の運営には様々なスタッフが関与しますが、これからの美術館にとって、異なる職種間のスタッフ同士のコミュニケーションや協働は、より重要となります。日常業務の中のちょっとした打合せが可能なスペースや、コミュニケーションを促す休憩スペース等も執務スペースのエリア内に分散して計画します。

▶国際版画美術館と親和性を持つファサードデザイン



A. 谷のロビーから両美術館を見る

展示室棟と収蔵庫棟で異なる外壁素材を使い、周囲の環境と合ったスケール感とすることを考えます。展示室棟は、国際版画美術館の履行する形状に沿って、建物ボリュームを分節し、公園の中でオーバースケールとならないように配慮します。3層の収蔵庫棟は、用いる素材の単位大きさやモジュールは十分検討し、色味にムラを出したり、貼り方に変化を持たせることで、圧迫感を与えない印象となる外壁素材を検討します。



B. マイスカイホール周辺から見る

▶公園の環境と調和した外壁素材の選定

隣接する国際版画美術館や、樹木の緑と馴染むよう、グレー系のモノトーンの色彩を採用し、建築が主張しすぎず、将来的に再度森が育った際に、周囲と調和する建築を目指します。収蔵庫棟は、森の中で経年変化に対しても、汚れが目立たない色とし、耐久性・耐候性のある素材とします。展示室棟では、コンクリートでありながら、木目の柔らかな表情を与える外壁素材を採用します。



C. 鳥瞰

▶様々なスタイルの展示に対応するフレキシブルで多様な展示室

展示室1/工芸品の生活における利用を想定した日常的な展示

日常的な親しみのある展示空間とします。自然光を採り込み、芹ヶ谷公園を臨む窓を設置することで、周囲の場所性を展示室内に取り込みます。展示台や独立ケースを使用します。



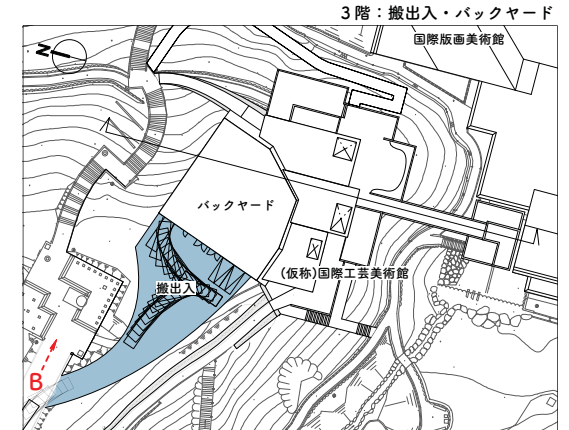
展示室2/工芸品の色や形などの正確な展示

展示ケース内で工芸品を正確に見せつつ、展示室全体では華やかな展示空間とします。壁面に展示ケースを常設することで、展示替えが容易な安定した展示環境を確保します。

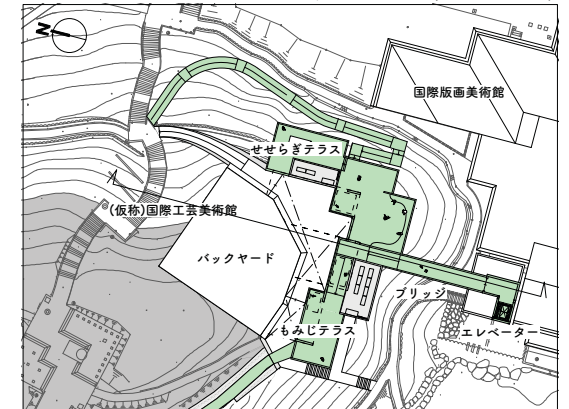


展示室3/工芸品の特徴を際立たせる演出的な展示

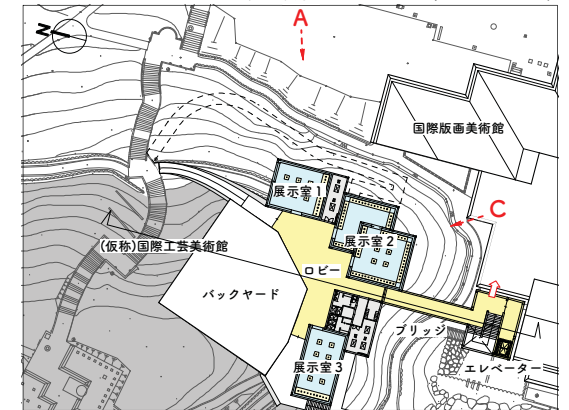
工芸品に集中させる緊張感を持った展示空間とします。ライティングを行う演出的な展示に対応し、工芸品を際立たせる背景となるニュートラルな展示室です。主に可動式の独立ケースを使用します。



2階：屋上テラス(+バックヤード)



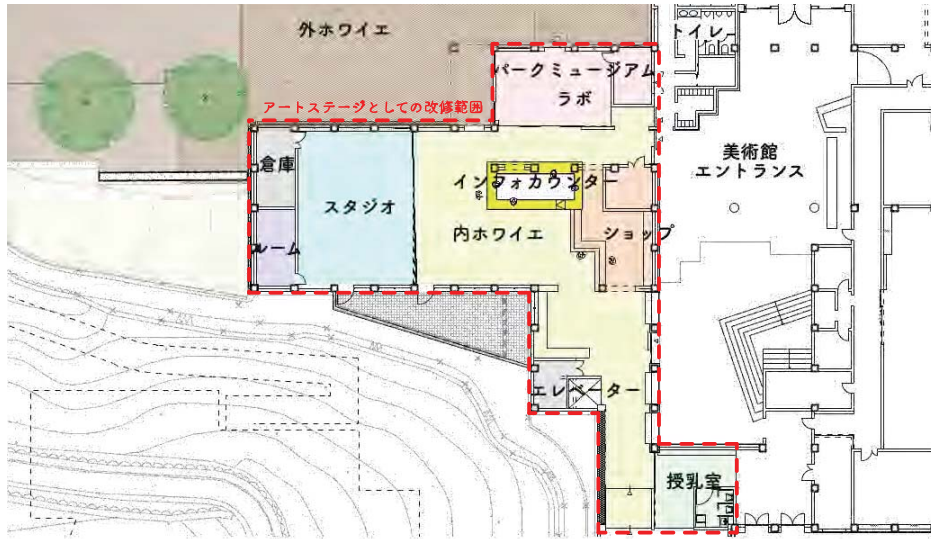
1階：展示フロア・ロビー(+バックヤード)



アートステージの整備について

▶アートステージの空間構成イメージ

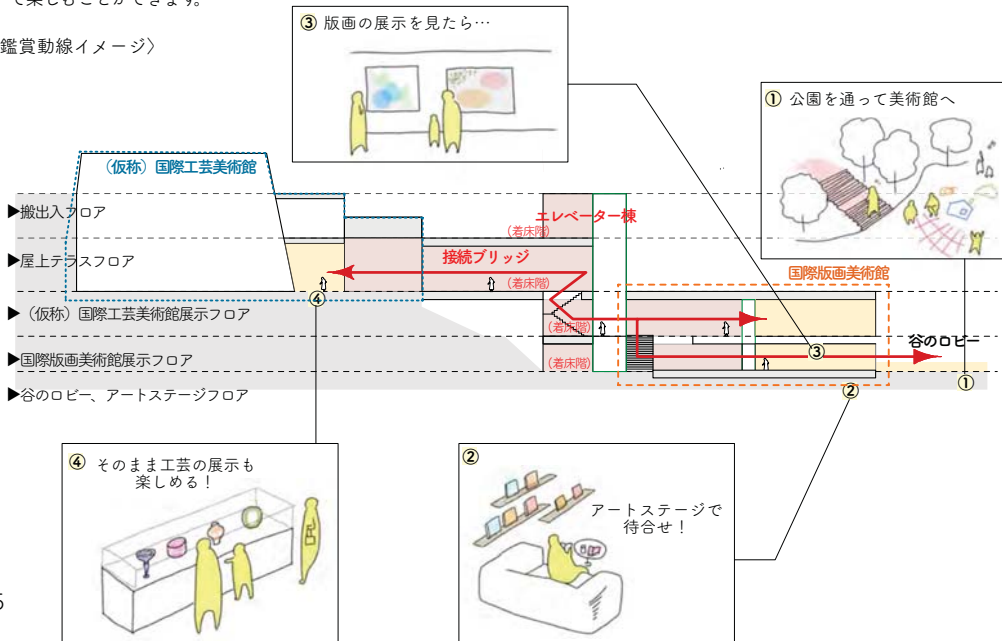
国際版画美術館の1階の一部を改修し、アートステージを整備します。



▶国際版画美術館と(仮称)国際工芸美術館の共有エントランスと鑑賞動線について

谷のロビーに面した現在の国際版画美術館のエントランスとともに、アートステージが両館共通のメインエントランスとなります。(仮称)国際工芸美術館は、国際版画美術館とブリッジにより繋がっており、版画と工芸品の両方の展示エリアをシームレスに移動して楽しむことができます。

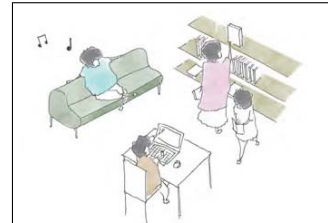
(鑑賞動線イメージ)



▶これからの美術館に求められる役割を担う「アートステージ」

新たに整備する「アートステージ」は、美術館の新たな顔となる導入空間です。これまでの美術館は、美術品を収集・保存・調査研究・普及・展示する役割を担ってきました。これからの美術館には、それらに加えて、「創作」と「対話」という役割がより求められています。今回の新たな美術館整備においても、「もの」の鑑賞を軸においた展示フロアに加えて、「こと」のための空間・場として「アートステージ」を新設し、子どもを含めたあらゆる人たちに参加・体験を提供します。また、国際版画美術館内にあった版画工房や飲食機能等はタイクンステージ内に移ります。

①サードプレイスとしての役割



美術には社会包摂的な働きがあります。創造的なコミュニティのための居場所となる、サードプレイスとしての役割を担います。

②アートセンターとしての役割



アート(美術)を媒介として、人々と美術品が集まる場となる、アートセンターとしての役割を担います。

③現代の美術表現に対応する役割



参加型アートやパフォーマンス・アート、インタラクティブ・アートなど、現代の美術表現に対応する展示空間としての役割を担います。

▶アートステージの諸室構成

多様な表現のための場

●スタジオ

多様化する美術表現に対応する新たな展示室として、「こと」としての美術が展示できる舞台のような場を計画します。さまざまな機能を持った天井を持つアートステージの中心的な空間とします。

日常的な集団活動のための場

●ルーム

スタジオに対する控室(楽屋)の役割とし、美術館におけるゲストの居場所をつくります。機密性のある少人数の会議室としても使用可能です。

居心地の良い滞在のための場

●パークミュージアムラボ

パークミュージアムを担う人々の拠点として、部室のような場を計画します。ミーティング・作業・レクチャーなどを実施可能で、普段は活動の様子が見え必要な場合には建具で仕切ることができます。

●ホワイエ(内ホワイエ、外ホワイエ)

サードプレイスとして、展覧会を目的とした市民だけでなく、あらゆる市民を包摂する、ホワイエのような場を計画します。活動や展示を行うこともできるフレキシブルな空間で、市民の居場所となります。

●インフォカウンター

パークミュージアムの情報提供の場として、美術館や各ステージの活動の情報などを入手できるカウンターを配置します。

●ショップ

●授乳室・親子コーナー

タイケンステージの整備について

▶タイケンステージコンセプト

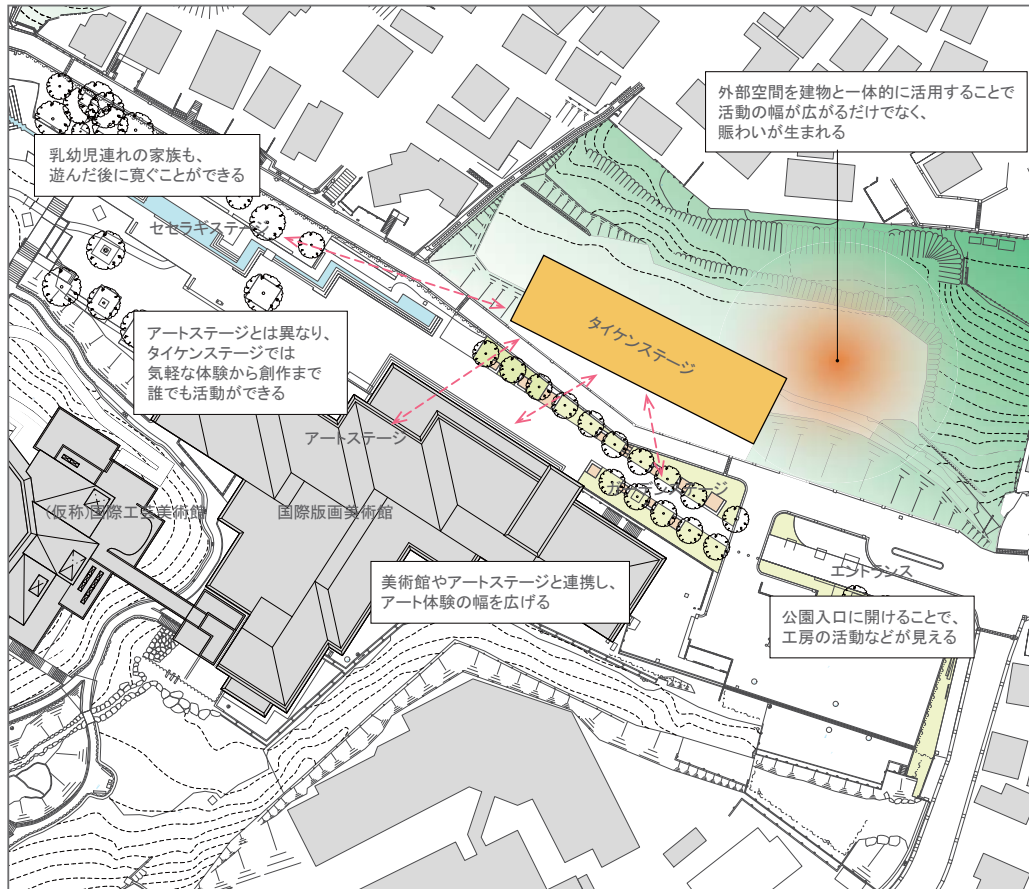
パークミュージアムにおいて、創作を通じて美術や文化を体験できる場所

工房機能を中心としながら、美術エリアにおける創作や体験を担う拠点として、多様な世代の人々が文化に触れ合うことができる様々な活動を提供していきます。ここでは多様な体験を通じて自然溢れる公園や美術館での活動へ誘い、パークミュージアムと出会うきっかけを生み出していきます。

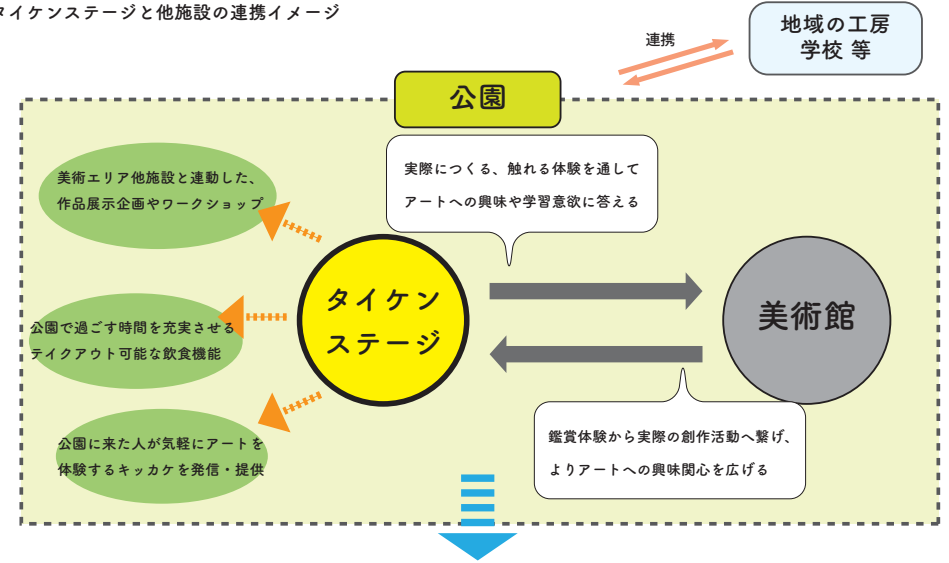
▶タイケンステージについて

公園に対し開かれた創作体験の拠点。より多くの子どもや市民に実際にアートと触れ合う機会を創出する場所として、版画工房に加えガラスや陶芸の制作できる体験工房を設けます。またパークミュージアムの運営管理事務所機能と一体として整備することで、パークミュージアムと連携したイベントや展示企画を積極的に行うことを目指します。併せてオープンスペースを併設させた飲食機能を設け、利用者・来園者のコミュニティ形成を行う場所としての役割を担います。

▶タイケンステージ配置イメージ



▶タイケンステージと他施設の連携イメージ



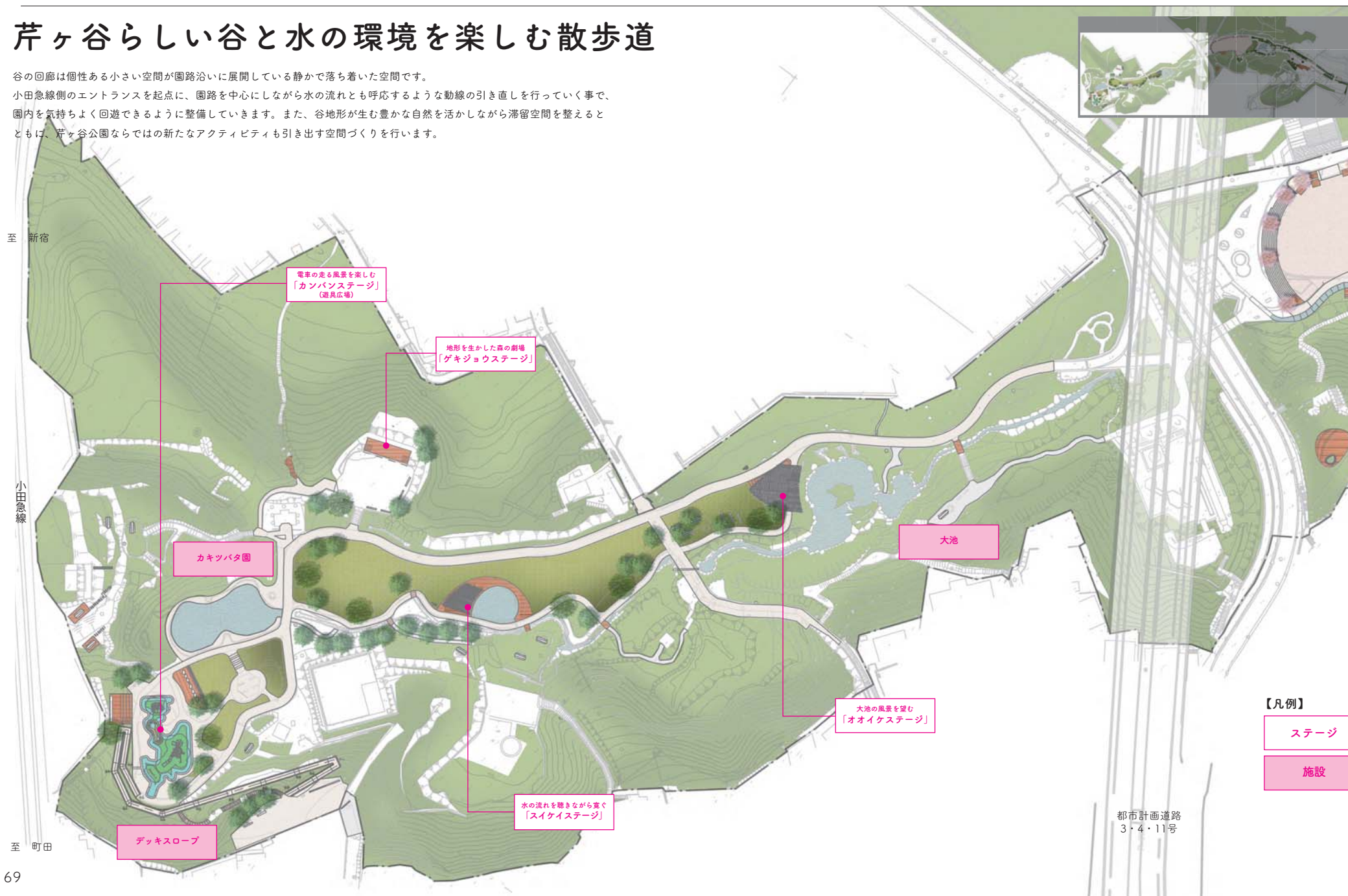
パークミュージアム全体と連動しながらアートに触れる機会を作り出し、多様な人々の興味・関心を育むことで町田の文化を醸成していく

▶タイケンステージの機能と役割

- 工房機能**
 - 想定用途：版画制作 / 陶芸体験 / ガラス体験 等
 - 市民が創作を楽しみ、芸術に触れる機会を提供
 - 子どもの体験プログラムの充実
 - パークミュージアムの中のものづくりを通じた交流拠点としての工房
- サービス機能**
 - 想定用途：カフェ / オープンテラス 等
 - オープンなスペースがある多様な世代が集うカフェ
 - 公園内他施設と連携し、公園滞在の時間を豊かにする飲食提供
 - 展覧会やワークショップ企画との連携を行う、活気あふれる場所
- マネジメント機能**
 - 想定用途：パークミュージアムラボ事務所 / 倉庫 等
 - パークミュージアムの運営拠点
 - より多くの人たちが安心して過ごすための行き届いた公園管理
 - パークミュージアムの活動への入り口となる情報発信の場

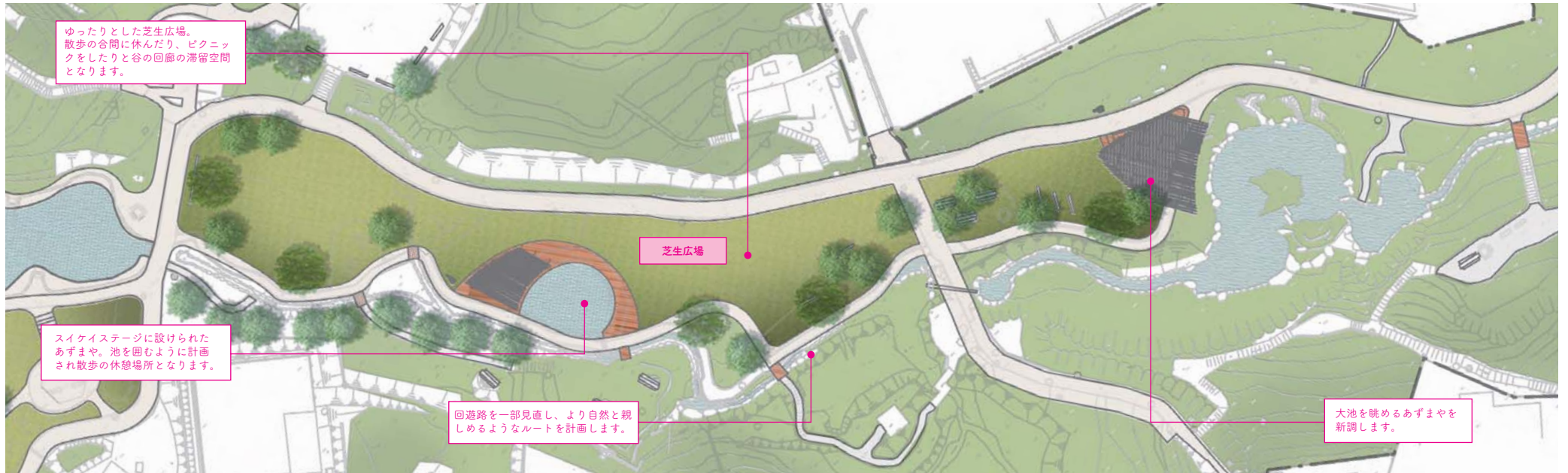
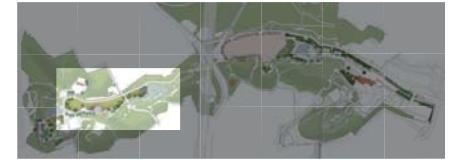
芹ヶ谷らしい谷と水の環境を楽しむ散歩道

谷の回廊は個性ある小さい空間が園路沿いに展開している静かで落ち着いた空間です。
小田急線側のエントランスを起点に、園路を中心にしながら水の流れとも呼応するような動線の引き直しを行っていく事で、園内を気持ちよく回遊できるように整備していきます。また、谷地形が生む豊かな自然を活かしながら滞留空間を整えるとともに、芹ヶ谷公園ならではの新たなアクティビティも引き出す空間づくりを行います。



芝生広場と水の流れ、ゆったりとした散歩道

新たに整備する回遊路を散歩しながら、水辺の生物の観察や、あずまやで休憩、芝生でピクニックができるなど、訪れた人それぞれが思い思いの時間を過ごすことのできる居心地の良い空間を創出します。



スイケイステージ



オオイケステージ



大池に面したあずまや。谷に囲まれゆっくりした時間が流れる散歩道。

子どもの遊び場と電車から見える芹ヶ谷公園

小田急線線路に近いエリアは、今回の整備で大きく変わるエリアの一つです。エントランスからのユニバーサル動線、アイキャッチとなる新たな看板（サイン）、子どもの遊び場など、エリアの活性化につながる整備を行います。特にカンバステージ（遊具広場）では、「電車に乗っている人から見える芹ヶ谷公園」という視点に着目し、緑の豊かさと「パークミュージアム」の雰囲気が伝わる整備を行います。



カンバステージ（遊具広場）は、小田急線からの視点を考慮して、芹ヶ谷公園のPRにつながるあり方を検討しています。



ユニバーサル動線のスロープを設けることで、街とのつながりを強化します。

§ 5
実現にむけたロードマップ

実現にむけたロードマップ

